

第四回館山市議定会定例会會議錄（第二号）

一、昭和五十五年十二月八日（月曜日）午前十時

一、館山市役所議場

一、出席議員 二十六名

一番 神田 守隆	二番 石井 謀
三番 綱島 憲治	四番 横溝 功
五番 福原 勤	七番 古賀 礼四郎
八番 石井 昌治	九番 松下 正己
一番 林 豊	一二番 栗原 一雄
一三番 近藤 好雄	一四番 渡辺 昭夫
一五番 伊藤 幸太郎	一六番 押元 稔
一七番 黒川 平治	一八番 流山 源次郎
一九番 石井 輝久	二〇番 石井 武敏
二一番 吉田 勇治郎	二二番 藤田 益治
二四番 和田 一郎	二五番 五十嵐 昇
二六番 伊賀 多朗	二七番 石井 正
二八番 安澤 徳順	二九番 安西 益男

一、欠席議員 二名

二三番 菊井 敏博

三〇番 山口 康

一、出席説明員

第一号より収入役、選挙管理委員会委員長、選挙管理委員会事務局書記長、監査委員、監査事務局局長、農業委員会会長、農業委員会事務局局長を除く

一、出席事務局職員

第一号に同じ

一、議事日程（第二号）

昭和五十五年十二月八日午前十時開議

日程第一 行政一般通告質問

開 議 午前十時二分開議

○議長（五十嵐 昇君） 本日の出席議員数二十四名、これより第四回市議会定例会第二日の会議を開会し、直ちに本日の会議を開きます。

本日の議事はお手もとに配付の日程表により行います。

行政一般通告質問

○議長（五十嵐 昇君） 日程第一、これより通告による行政一般質問を行います。

締め切り日の十二月三日正午までに提出のありました議員、要旨及び順序は、お手もとに配付のとおりであります。

これより順次質問を行います。この際申し上げます。通告質問者は以上のとおりであり、他に関連質問等の発言もあらうかと思いますが、本日は通告者のみといたします。

発言の方法は、最初の発言を二十分以内とし、執行当局の答弁は時間外、再質問は答弁を含めて三十分以内といたします。

これより順次発言を願います。

二〇番議員石井武敏君御登壇願います。

（二〇番議員石井武敏君登壇）

○二〇番（石井武敏君） 通告質問いたします。

昭和五十五年もすでに十二月を迎えまして、文字どおり師走でござります。一年間の悲喜こもごもの思いをのせて、この十二月

の師走も足早に通り過ぎようとしております。

さて、時節柄、本市におかれましても予算編成時にあたっていると申します。市長におかれましても新年度予算に対してさまざまな角度から検討を重ねられまして、予算編成の基本的な路線を決定される時期であらうと思っておりますので、予算編成に取り組まれる市長の基本的な姿勢をお尋ねするものであります。

また、この予算編成期は、とりもなおさず本年度の反省期でもあります。来年の一月、二月になれば、すでに執行される予算の調整期に入ってくると思えます。そこで、年度当初に掲げた目標が余すところなく完遂したかどうか、当初の路線どおりに推進できたかどうか、路線の選択は的確であったかどうか等を反省することが肝要であり、これらの過去の経緯を考慮し、新たな路線を決定していくという重要な時期であると思えます。

さて、本年度は、一、住みよい環境づくり。二、福祉社会づくり。三、教育文化の環境づくり。四、産業の基盤づくりの四項目が重要な柱でありました。これらの施策推進は当初の予定どおりに進んだのでありましょうか、まずお尋ねするものであります。住みよい環境づくりにつきましては、一、衛生センター建設は予定どおり順調に進んだかどうか。二、地域の実情に即した道路改良及び舗装はどうか。三、公園の整備はどのように進められたかの三点につき、それぞれの経過を御説明願いたいと思えます。

次に、福祉社会づくりについてであります。特に老人福祉の推進については年度当初の市長の施政方針を見えますと、次のようになっております。「今後の高齢化社会に対応して高齢者が希望と生きがいのある生活環境が得られるようその基礎づくりと

しての老人クラブ組織の強化、助長を図ってまいります。また、長期にわたる在宅寝たきり老人に対して特殊寝台、マットレス、紙おむつ等日常生活用具を無償で貸与し、または給付し、さらに搬送車により特老ホームの入浴施設を利用した入浴事業の実施」等として、方針が示されておりましたが、老人クラブ組織の強化日常生活用具の貸し出しまたは入浴事業は老人福祉の路線にのっとってどのように進められてきましたか、説明を求めます。

次に、教育文化の環境づくりについてであります。特に新規事業としての南総の文化遺産を保護し、継承する博物館を建設するため、博物館準備室を設け、昭和五十六年度建設を目的としてスタートしましたが、博物館に展示する資料等は予定のように収集が進められてきましたかどうか。この博物館につきましては、近い将来具体化される城山公園の博物館との関連があると思えますので、その内容について御説明をいただきたいと思えます。

次に、観光施策の推進についてであります。市長の施政方針には「首都圏周辺を中心とした観光キャラバンをはじめ、報道機関等を活用した宣伝を行い多季型観光地づくりに努めます」とありますが、さて、観光キャラバンの効果はどうでありましたか、そして多季型観光という観光都市としての成長はどうでありましたか、市長のお考えをお伺いしたいと思っております。

次に、新年度への路線の選択につきましては、検討が重ねられていることと思いますが、その基本的な、重点的な骨子については予算を編成される基本になっていると思えますので、どのような路線を決定されたかをお尋ねするものであります。

この件に関しましては、私の質問の要旨は次のとおりであります。

す。一、予算編成に取り組む基本の重点は何か。二、福祉施策の重点はどこに置くか。三、教育施策は具体的にどのような考えられるか。四、観光施策は何を基本にして進められるかの四点であります。

一の予算編成に取り組む基本姿勢は何かにつきましては、市長は施政方針の中で次のように述べています。「私は、市長就任以来、一貫して人間尊重、市民生活優先を市政の基本理念として、明るく豊かな香り高い文化福祉都市の実現に向かって努力してまいりました」と、市長の基本理念を明らかにしております。この人間尊重、市民生活優先の理念を予算編成の中でどのように具体的にしていこうつもりか、柱となるどのような重点施策をつくられていく所存であるかをお尋ねする次第であります。

二の福祉施策についてであります。住民の生活は表面的には物質的豊かさが増しているように見えますが、現実の生活内容をよく検討するならば、今後順次解決を図らなければならない幾多の問題を抱えていると思います。たとえば、高齢化社会への対応はどうしたらよいか。また心身障害者の生活上はどのように図られていったらよいか。また母と子の福祉はどうか。また生きがいのある勤労者対策はどうか等々であります。私は予算編成の中で期待できる市長の重点的な福祉施策は何かをお尋ねするものであります。

三の教育施策につきましては、新年度予想されます学校諸施設の整備計画についてどこまで具体的にできておりますか、お尋ねをいたします。

また、三中建設で採用しました新方式GSKシステムにつきま

して、市当局はどのように感想をお持ちですか、あわせてお尋ねする次第でございます。

最後に、四の観光施策につきましては、観光協会の組織の強化とともに活動の強化、また多季型観光への積極的な対策は観光予算を編成する上で考慮されていると思いますが、新年度考えられる施策にはどのようなものがあるかをお尋ねいたします。

以上、御質問申し上げます。御答弁によりまして再質問をいたしたいと思っております。よろしくお願いいたします。

（市長半澤良一君登壇）

○市長（半澤良一君） 石井武敏議員の御質問にお答えいたします。

本年度の予算の執行状況についてのいろいろ御質問がございました。その第一点は環境づくりについてでございますが、衛生センター、道路改良及び公園整備等についての御質問がございましたが、衛生センターの建設は予定どおり順調に進んでおります。

御案内のようにこれは三カ年継続事業でございますが、五十四年度においては用地購入及び処理施設本体工事の一部を実施いたしました。五十五年度におきましては引き続き処理施設本体工事、真倉側搬入道路の建設を実施しておりますけれども、本体工事は駆体が打ち上り、機械、ポンプ類の取りつけ工事に入っております。搬入道路につきましては、当初予測し得なかった空洞等の対策が必要となりましたが、土工事はほとんど終了し、本年度末完了の予定であります。五十六年度最終年度におきましては、本体工事の仕上げ工事、西長田側搬入道路建設工事、造園等を予定しており、昭和五十六年七月頃には試運転を開始したいと考えてございます。

道路の舗装及び改良につきましては、現在五十五年度当初の目標に対しておよそ八六・二％程度を実施をいたしております。道路の舗装につきましては、当初の目標に対して六三％程度を完了をしておりますが、さらに事業を拡大させ、計画完遂を目指して努力して、住みよい環境づくりを推進してまいりたいと考えております。

次に、公園の整備でございますけれども、計画に従い逐次進めてまいりましたが、沖の島公園等の工事については、当初計画のおよそ八八・九％を実施をいたしております。また公有財産の購入すなわち城山公園の用地買収につきましては、多くの市民の御協力をいただきまして進めてまいりましたが、今月予定されております千葉県都市計画地方審議会が開催されました、館山市の都市計画公園の変更が決定されませんと買収ができませんので、まだ買収をいたしておりません。ただいまのところは地主さん方と折衝中でございます。

福祉施策につきましては、老人福祉の増進についての御質問でございますが、三月議会においてお答えいたしました御指摘の諸事業は、四月及び十月から実施をいたしまして、次のような内容及び経過をたどっております。

老人生きがい対策事業についてであります。趣味クラブの書道部と菊づくり盆栽部の二部を対象として実施をいたしました。書道部については書道部員の十七名を指導者として、市内十地区にある公民館を利用し、社会教育部門との緊密な連携のもとに月一回実施しており、九月の老人文化祭には四十三点を出品されました。

菊づくり盆栽部については、苗木育成のためフラワーボックス五十個、それに必要な培養土を購入し、千五百本を育成し、将来五千本を目標としております。

老人日常生活用具の貸与及び給付事業については、当初実態調査により予定されていた特殊寝台、エアバット、マットレス、便器、紙おむつ等予定どおり交付されております。

寝たきり老人等入浴援護事業につきましては、十月一日より週二回実施しておりますが、当初十一名の希望者も随時ふえまして現在は十七名が入浴をいたしております。寝たきり老人は約百二十名おりますので、今後入浴希望者はふえることが予定されますので、これに対応した措置を考えております。

次に、教育施設に関連いたしまして、博物館準備室の御質問でございますが、この博物館準備室が発足いたしましたして八カ月を経過したわけでございますが、この間、天守閣形式の博物館分館の設計及び展示資料の基礎的な資料を得るための調査を実施いたしております。

博物館の建設時期につきましては今後の計画を年次別に申し上げますと、まず分館につきましては、本年度設計を株式会社構造計画研究所に委託をいたしました。五十六年度建設、五十七年度開館を予定しております。本館につきましては五十六年度設計、五十七年度建設、五十八年度開館を目的に設置する考えてございます。

分館及び本館に展示する資料につきましては、本年度里見氏に関する資料を中心に市内の文化財調査を実施しております。実施した主な内容は、市内の小中学生の父兄を対象に博物館資料調査

をアンケート方式で実施をいたしました。また里見関係の墓石等を含めた石造物の調査を実施をいたしております。このほか文化財審議委員等市民の協力を得まして資料の調査を実施しております。これらの資料調査を重ねる一方、展示構想案の作成に努めているところでございます。五十六年度に展示テーマを設定する考えてございます。

次に、観光政策に関しまして、多季型観光への御質問でございますが、観光客誘致のための重要な宣伝の一つでございます。観光キャラバンは関東周辺、東北地方を実施をいたしてまいりました。その成果測定は大変むずかしいところでございますが、キャラバンも誘致宣伝に効果があらわれているものと信じております。

多季型観光への成果につきましては、当市は海水浴を中心とした夏型観光地から、冬から春のポピーを主とした花、四季を通じての海釣り客、新鮮な魚料理、地びき網客等徐々に多季型観光地へと移り変わりつつあると考えております。また来年から始まります観光イチゴ園も多季型観光地へと期待をいたすものであります。

最後に、予算編成における基本姿勢の問題でございますが、まず第一点は、予算編成に取り組む事業の重点は何かという御質問でございます。が、新年度の予算編成にあたりましては長期計画に基づく根幹事業を最優先として行うことといたしまして、国の施策の動向及び多様化する住民の要望等を十分検討いたしまして重要性、緊急性に応じた財政の重点的かつ効率的な配分を行いつつ、より一層の行政水準の向上に努める所存でございますが、最近における市民の行政に対する要望は、生活環境施設整備に對

し、非常に強いものがございます。

私は、このような要望にこたえていくことが市民生活優先につながるものと考えて、従来から努力をしてまいりました衛生処理場、道路等の建設、整備のほか、市民が文化活動、スポーツ活動等を通じ、豊かな市民生活を養い、心身とも健全な生活が営まれるよう文化、スポーツ施設、城山公園、博物館等の建設、整備を促進すべく現在検討いたしております。

また、福祉施策の重点はどこに置くのかという御質問でございますが、福祉政策は国の政策を基本といたしまして、いわゆる法律に基づいて実施していくことが前提であると考えます。しかし法体系になじまない必要な施策はそれぞれの都市で考えていかなければなりません。が、あわせて社会的連帯という観点からも、行政だけでなく、社会福祉協議会とも十分連携をとりながら、市民も、家庭も、事業者もすべての者が協力し合ってよりよい生活の向上のため努力していかなければならぬと考えております。

いづゆる地域ぐるみ福祉の推進でございます。

特に、五十六年度は従来の諸事業にあわせ社会的に弱い立場にある在宅老人、在宅身体障害者の在宅福祉サービスを重点とし、本年度実施した諸施策のより充実と、国際障害年でもございますので、身体障害者の実態、ニード等の把握、これは大変むずかしい要素がございますけれども、こうしたことを実施してまいりたいと考えております。

教育施策についてでございますが、新年度学校諸施設の整備計画につきましては、防衛施設庁補助の事業で船形小学校が五十五年度に引き続き第二期工事として二千八百六十七平方メートルの

内装工事を予定をいたしております。また館山幼稚園園舎の改築につきまして設計補助を防衛施設庁に申請したいと考えております。

次に、文部事業といたしましては、第三中学校の学級増により普通教室六室、七百平方メートルの増築と神戸小学校の学級増により普通教室一室、管理諸室を含む約二百七十平方メートルの増築を予定をいたしております。

なお、第三中学校で採用いたしましたGSKシステムにつきましの感想でございますが、先般の地震被害がありましたので、その工法を含めて文部省に照会中でございますので、ただいま申し上げる段階ではございませんので、御了承をいただきたいと思います。

最後に、観光施策についてでございますけれども、館山市観光協会の組織強化とともに活動の強化につきましては、協会内部において種々検討中でございます。

多季型観光への積極的な対策と観光予算につきましては、兩房総国定公園の中心地でございますので、他地域の観光都市とは違った明るい開放的な自然を有している地域でございますので、この自然を保護しながら長期滞在できるスポーツ、レジャー施設の充実を図り、多季型観光地へと積極的に進めてまいりたいと存じております。そのために誘客に大きな役割りを果たしている観光協会に対しましては今後とも事業補助を考え、加えて関連する関係施設等の協力体制を得ながら、観光資源の保存、開発を図るように計画をしてみたいと考えております。

以上、答弁を終わります。

○二〇番（石井武敏君） ただいま御答弁をいただいたわけでございますが、再質問をしたいと思います。

初めに、福祉という点から御質問申し上げたいと思います。ただいま御答弁にございましたが、福祉は国の施策であるというところが基本になっておるようでございます。地域ぐるみの福祉特に来年度は在宅福祉サービスを重点的に行うと、要約しますと大体そのようなお答えがかえってきたと思います。

御承知のように、来年は国際障害年でありまして、身体障害者に対する手厚い配慮をしていくという年に一応なっているわけでございます。これは館山市がそういう年をつくったわけではないわけでございますが、一応社会全体の動きの中からそういう目標観をつくりまして、それにおのおのが進んでいくというものであると思います。

確かに、国の施策によるものが福祉という面からすれば多いと思いますが、しかし国の施策も、国が打ち出している精神というものをもを具体化していくのはやはり地方自治体の役割りであるというふうに私は常々感じているものでございます。

そこで、御質問申し上げるわけでございますが、来年度の福祉の具体的な施策については何種類か御検討がありましたでしょうか。御答弁によりますと、まだ予算編成の時期でもあります、きちっとした具体的なものが出来るのはおそらく一月から二月にかけてであろうと、私もこういうふうに推測するわけでありますが、おそろく一月、二月には予算の調整期に入っておりますが、具体的な目安というものはいま時分からかなければはつきりしてこないと思いますので、具体的な施策がありましたら、ひとつ御

説明を願いたいと思います。この次の通告質問をやるとしても三月の議会になりますので、そのときにはすでに明らかにした市長施政方針演説が聞かれるわけでございますから、私はそれ以前にこういう質問をする機会がありませんので、あえて具体的にになっている点をお聞かせ願いたいと思うものでございます。まず第一点。

○民生部長（鈴木 力君） お答え申し上げます。

来年度の福祉施策といたしまして、現在具体的な策は何かというお尋ねでございすけれども、来年度は先ほどお話にございましたように国際障害年でございすので、心身障害者特に重度の身障者を対象といたしまして、いわゆる福祉ニーズの把握という点からその実態というものをよく調査をいたしたい。このように考え方に立っておるわけでございます。それによりまして今後身障者対策を具体化していく。こういう考え方でございます。

なお、地域ぐるみ福祉の推進でございすけれども、館山市におきましては、地域ぐるみ福祉につきましては昭和五十二年度に千葉県のモデル地区ということで指定を受けて、その後各地域のボランティア活動をはじめといたしまして推進をしてきていますわけでございますが、特に住民参加による心の通った地域ぐるみ福祉というものにつきましては、千葉県におきましても意欲的な推進を図っているところでございまして、館山市におきましても県の施策に呼応いたしましてそれぞれ具体的にボランティア活動を推進しておるわけでございます。

同時にまた、福祉活動の推進員制度を設定いたしまして、社会福祉協議会をパイプ役といたしまして、現在それぞれ活躍をして

いただいております。そういうことからいたしまして、今後はいわゆるいままでの施設中心とした社会福祉から、住民参加による地域福祉というものを推進していく必要がある。このような基本的な考え方に立っております。そういうことで、来年度におきましては、特に社会福祉協議会にお願いいたしまして、地域ぐるみ福祉の推進というものを大いに図っていききたい。こういう考え方でございます。

その他につきましては、本年度特に四月から老人に対する日常生活用具の貸与事業あるいはまた十月から実施しました寝たきり老人の入浴事業あるいはまた寝たきり老人の短期入所事業こういうものを実施したわけでございすので、これらのものを踏襲いたしまして、ますますその内容の充実を図ってまいりたい。このように考えている次第でございす。

○二〇番（石井武敏君） ただいまの御答弁で理解しましたけれども、国の方では重度心身障害者等に光を与えて福祉施策を進めるということでありました。国の方の行き方というのはすでも十二月には明確になっていると、来年度国としては国際障害者年であればこういうふうになっていくという路線がすでははっきりしているというふうに時期的に私たちは理解してよろしいわけですか。

○民生部長（鈴木 力君） 来年度の国際障害年につきましては、先般とも申し上げましたとおり、特に重度障害者に対してその実態を把握したい。こういうことで調査を実施するわけでございます。

現在、障害者につきましては、大体九百三十四名市内におられ

るわけでございますが、それらの方々に對しましてはいろいろ制度上の手当、年金あるいは施設の收容等実施しておりますけれども、中にはやはりまだ制度をよく理解しておらない家庭もいらっしゃるわけでございますので、そういう家庭を含めまして調査と同時にまたいろいろの制度上の施策というものを障害者、保護者に對しまして理解をしていただく、こういうことを兼ねまして実態の調査をしたい。こういう考え方でございます。

〇二〇番（石井武敏君） 来年度は身体障害者にとつては重要な意義のある年であるので実態掌握するのであると。いわゆるこの実態掌握というのは、おそらく身体障害者がどういうことを要求しているかという、そういうた掌握であろうかと理解をするわけでございますが、九百四十三名ですか、かなりの人が障害者としていらっしゃるわけでございます。それらの人がどういふものを求めているか、何を求めているか、こういう実態調査をするのが障害年の年であると。説明を一貫してずっと聞いていますと、障害年というのは身体障害者に対して特別な温かい配慮をするのが障害年の意義があると。しかし何を求めているか障害者のニーズを把握するのが障害者の年であつては、何か説明を聞いていると一歩遅れているような気がするわけでございます。

たとえば、身体障害者の年を本當に意義あらしめる、精神を具体化するためには、何を求めている調査とか、実態とかいうものは、九百名も障害者がいらっしゃるわけですから、すでにその前に掌握をして、それでは障害年であるからこのように具体的に施策をしましょうと、こういうような温かいもので年を過ごしましょうかと、その年になつてそういうた施策が具体的になつていく

べきではないかという感じをいまの答弁で受けるわけです。いわゆる障害者の年になつてから、障害者が何を求めているか実態掌握すると、それでは実態掌握して次の年は国際障害年ではございません。どういふ年になるかよくわかりませんが、継続してやられるのではないかと思います。九百名になんなんとする障害者がいらっしゃるわけでございますから、そういう人たちがいまの御答弁でいきますと、身体障害者の福祉制度をよく知らない方もいらっしゃるというような答弁があつたと思うんですが、そういうことではちょっと遅れているのではないかと。国の施策にあくまでのつとめていくという理解はしますよ。しかし国の施策を実際に生かしていくのは地方自治体であるというふうに私は福祉に對しては基本的に考えているわけでございますので、その点どのような基本的な考え方に立っているか、御説明を願いたいと思います。

それから、衛生センターの建設についてでございます。これは特に衛生センターの中でいままで予測し得なかつた道路の補修とか、陥没とか、道路に穴が空いたとかそういうた補正がたびたび見受けられるわけでございます。さきの臨時議会でもたしか補正予算が組まれたように記憶しておりますが、今回の補正でも道路の補修が出てきているように思いますが、この際、この質疑を通して、搬入道路の整備計画これをもう少し明らかにしておいてもらいたいと思います。搬入道路は何メートルあつて、幅員がどのくらいですか、搬入道路の整備計画というのはどういふように考えられておりますか。たびたび補正で道路の補修がぼつぼつと出てきますので、このへんを明らかにしていただきたいと思います。

わけてございます。

○民生部長（鈴木 力君） 身障者の実態調査につきましては、特に来年度国際障害者年にあたりまして、その実態を把握したいというところでございますが、この調査につきましては一応毎年度家庭訪問いたしまして、その状況を把握はしておるわけでございますが、特に精薄等におきましては五十五年度におきましても実態調査は行われておりますが、先ほど申し上げましたとおり、来年度はさらに具体的な実態を把握いたしまして、障害者のニーズの把握に努めたいという、こういう趣旨でございますので、御理解をいただきますと思います。

それから、衛生センターの搬入道路の建設でございますけれども、整備計画といたしましては、五十五年度に真倉白浜線県道から入りまして衛生センターまで千六百三十メートルの間を、有効幅員五メートルの道路を現在建設中でございますが、お説のように珪素あるいは白土の採掘跡の空洞等ございまして、それらの手当てをいたさなければならぬ分もあるわけでございますけれども、この面につきましては当初から全く予測できなかった次第でございます、この点につきましては御了承いただきたいと思うわけでございますが、新設工事につきましては土工分がほとんど終了しております、あとはのり面の舗装工事を含めまして今年度中に施行を終る予定でございます。

それから、なおもう一本は、西長田の方から入る道路につきましては本年度設計いたしまして五十六年度の最終年度に舗装工事等を行う予定のでございます。

○二〇番（石井武敏君） 最初、福祉につきましてでございますが、

私いつも感ずるんですけども、身体障害者の方が身体障害者手帳というのを持っておるわけでございますが、身体障害者手帳というものの意味を、恩典を知らない方もかなりいらっしゃるわけでございます。これは国の施策でありますので、身体障害者手帳の恩典というものを市でつくっている施策ではございませんのでその所感を、どういふふうに感ずるかということをお聞きしておきたいんですが、身体障害者手帳の持っている内容、恩典といいますか、たとえば、電車に乗るのは電車賃が二分の一になるとか、身体障害者手帳があるけれども、恩典の範囲というのが非常に狭いように私は思う。これは国の施策でありますから、市当局の所感を聞いておくだけで結構ですが、身体障害者手帳があることを知らない人が多いかというと、大体魅力のない恩典であると思うんです。その点に対してどういふ所感をお持ちですか。

それから、質問を進めますが、博物館につきまして御質問をしたいと思います。これは先ほど建設の年度とか、細かく答弁をいただいたわけでございます。輪郭がおよぼるげながらはつきりしてきたわけでございますが、この事業は館山市の市民会館というのが最近できたように承るわけでございます。城山総合公園をどういふふうにつくっていったらいいかという市民の多くの人たちの意見を聞いて、皆さんの望む公園をつくりたいという市長の考え方がそこに具体化されているように思うわけでございますが、各方面から注目を浴びているのがこの事業ではないか、かなり大きな事業になってくるわけでございます。予算規模からしましても新年度は、そこでお尋ねしたいわけでございます。

私は、この質問では特に博物館に展示する内容につきまして少

し詳しく聞きたいと思いますが、ただいまの御答弁聞きますと、市内の小学校、中学校の生徒たちにアンケート方式によりまして家に資料があるかどうか、そういうような方法で資料を集めているというような説明がありました、重要な資料を集めるためには非常に方法が単純といえますか、もっとほかに方法があるのではないかというような感じを受けるわけでございます。収集の方法につきましてほかに収集の方法は考えられないかどうか。

設計が終っておりますのが城山の分館の方が設計が終っているわけでございますので、分館の方の展示スペースも設計の中ではつきりしているわけでございます。そうなれば展示スペースが何平米あって現在どのへんまでが収集できているか、五十六年には建設、五十七年にはすでに開館という計画でございますので、間近でございます。現在どのへんまで、たとえば収集計画がある以上、展示スペースがどこまで埋まるかという計画はおのずからはつきりしていると思いますので、その点どのようににはかどっているか、お尋ねしたいと思います。

それから次に、観光施策でございますが、キャラバン隊も東北関東周辺行きましてキャラバンの効果はあらわれているというように評価しているわけでございますが、私はこの観光キャラバンと言えば大体推測はつくわけでございますが、花を配ったり、産物を配ったりしていると、そういったテレビもときどき見受けるわけでございますが、やり方としてはもう十年来同じような宣伝PR方法をとられてきているように思うわけであります。

このへんで、多季型観光が徐々に進んでいるという御答弁でありました。そういった答弁からしますと、十年來のいままでの慣

習みたいなPRを打ち破った新しい趣向の、新しい形の、新しい時代に沿った宣伝方法というようなものが考えられないかどうか。おそらくこのキャラバン隊というのは十年以上前から毎年同じことをやってきているわけでございます。そこで非常にマンネリズムになってきているのではないか、そういうふうに感じますので新しい時代に即した、新しい趣向の宣伝の方法こういったものは考えられないかどうか。またこれは観光協会が具体的にやるでしょうけれども、観光協会に対して指導性を持つ当局としてどういうお考え、御質問をいたします。

○民生部長（鈴木 力君） 身体障害者に対する、手帳保持者に対する援護が薄いのではないかと、こういう御意見でございますけれども、身体障害者に対する福祉対策といましては、身体障害者福祉法に規定されました措置のほかは、身体障害者ヘルパーの派遣等々実施をいたしておるわけでございまして、この手帳保持者に対してはある程度の援護というものは行われている。そのように考えておる次第でございます。

○教育長（安田豊作君） 博物館についての御質問でございますが、収集がなまぬるいじゃないかという御質問でございますが、まず、市長の答弁にありましたように博物館の分館を来年度お願いしようという考えでございます。この博物館の分館すなわち天守閣の形をしたものでございます。この分館そのものが一つの文化財といえますか、天正年代の形をしたものであって、それを見、児童生徒、市民が見ることによって、当時の城はこういうものだったと、城の一つのお手本のようなものをつくらうと、それ自体が

一つの展示物というふうに私も考えております。

その中の展示スペースでございますが、四十ないし五十平米ぐらいでございます。そう多くのものを並べるわけにはいかないわけでございます。

それともう一つは、家庭調査なんていうようなことではなまぬるいんじゃないかということだと思いますが、さっきも御質問にあったように城山というものを市民に親しんでもらうというか、私どもの城山、私どもの博物館という考え方から、家庭の皆さんにあるものからまず調べてみたい。こういうことで小学校三年、六年、中学の一年の家庭から調べました。約二千数百の家庭を調べましたけれども、貴重なものが数十点あるということが確認されました。

さらに、調査としては専門家による調査も必要だということで里見関係の石造物について三日間調べました。この中にも非常に貴重な資料があるというようにつかんでおります。これが、いままでの予算の中でお気づきと思いますが、そういうものを市のものでして買い上げるという予算はまだ取ってありません。いまだここに、どういうものがあるということ把握するということを進めております。

〇二〇番（石井武敏君） 博物館準備室というのがあります、いまここに何名の準備員がこれらを整理しておりますか。

〇教育長（安田豊作君） 島津室長以下主査が一、主事一の三名でございます。島津室長は県の方からそのまま専門員として派遣してもらっております。さらに調査員としては、調査のための経費は予算の中でみていただいておりますので、おのこの専門家を頼

んで手伝ってもらっております。こういう形でございます。

〇二〇番（石井武敏君） 準備委員としての内容の濃い、せっかくつくるわけですから内容の濃い、天守閣も器ばかりでなく、内容も充実しているものを期待していると思いますが、準備委員が三名これで十分ですか。増員の必要はありませんか。

〇教育長（安田豊作君） 人があればいいと思いますが、それに依って依頼する経費を今年幾らか組んでありますので、その中で石造物の調査のようなものは進めたわけでございます。専門専門によって現在に進めたい。こう思っております。

〇二〇番（石井武敏君） 質問が飛びますが、GRSシステムの工法を含めて文部省に照会してあるということと先ほど答弁がありました。これは文部省の推薦というのが非常に大きく影響しているように思います。この工法をとり上げた背景を見ますと、工期が早く済むということも大きな要因であったろうと思いますが、文部省で推薦しているんだから確実であろうという信頼感があったように私は思います。採用した背景にはこの工法が早いということ、堅牢であるということ、文部省の推薦であるということ、この三つが採用の柱になっていると思います。が、実際に建ててみてあまりかんばしくなかった。これは当局として、建てた例としてはどういうふうに考えておるかという質問をしたんですが、工法を含めて文部省に照会してありますという御答弁ですが、今後館山市がその工法で学校をまた建てていくとか、慎重にこうした工法は取り上げなければならぬという、そういう方法は市独自では立てにくいものでしょうか。文部省から予算をいただくとか、いろいろなことがあります。そのへんはどうですか。

○教育長（安田豊作君） 自主的に建てることは差し支えないと思いますが、慎重にという考え方で私どもは考えております。

○議長（五十嵐 昇君） 以上で、二〇番議員君の質問を終わります。

次、一番議員林 豊君御登壇願います。

（一番議員林 豊君登壇）

○一番（林 豊君） 私は、本定例会に際しまして、さきに通告をしておきましたとおり、次の三点につきまして質問を行います。

その第一点は農業問題であります。まず、館山市の農業振興対策と観光についてであります。

最近におけるわが国の農業は、激動する国際社会の影響を受けて、その方向性をも失いつつあると判断をされるのであります。すなわち五十三年度より始められました水田利用再編第一期対策は本年度をもって終了し、五十六年度からは第二期対策が実施されようとしております。

過去三年間の経過を振り返って見ますと、その目標面積においては、初年度の三十九万一千ヘクタールに対し、三年度の五十五年度においては七三万増の五十三万五千ヘクタールに増大をされてまいりました。そしてしかも、戦後最悪と言われる本年度の冷災害によって需要を百三十万トンも下回るような生産量しか得られなかった。翌年すなわち五十六年度からは生産調整を一段と強化をして、第二期対策としてさらに本年度に十四万二千ヘクタールという膨大な数字を上乗せして、実に六十七万七千ヘクタールという面積を決定をいたしました。

また、転作奨励金においても、基本額を現行よりも五千円引き

下げるということで決着をみたのであります。一言で言えば、目標は天井なしに上げる。奨励金は底なしに減らすというのが農水省の方針であります。

これに加うるに、十年ほど前より推進をされてまいりました水田の基盤整備事業は、農家に大きな負担を課しております。工事費十アル当たり七十万円をオーバーしようというような負担金の償還期を迎えて、米作農家の苦悩はまことに目に余るものがあると推察をされるのであります。

わが館山市においても、本年度は三七％という過酷な目標面積を消化いたしました。さらに五十六年度は十二月中におそらく割当が行われると思えますけれども、ほとんど耕作面積の五〇％に近い面積を消化せねばならぬことに相なるうと判断をされるのであります。

以上の厳しい農業事情の中で、農家の農政に対する不信はもはやその極に達しておると判断をされます。われわれ農民は、いまや政府の示す農業政策に盲従することなく、地域の特性を生かした農業所得の安定を目標として、ますます創造性を発揮してみずから自衛の手段を考えべきであると、そして八〇年代に生き抜く覚悟が必要であるというふうに考えます。

わが館山市においても、すなわち観光農業であると確信をいたします。市長は本年の三月五十五年度の勢頭にあたりまして、館山市政の指針を施政方針として述べられ、その中で「一九八〇年代のスタートにあたり、市民はそれぞれ地域において自然、生活生産環境を整備し、真に安房郡の中核都市としての機能を整備し、豊かな生活を享受でき得るような生活圏づくりをしなければなら

ない」というふうに述べられております。まことに心強い限りであり、市民として深甚な感謝の意を表するものであります。

しかしながら、この一年間の経過を顧みますと、海浜の整備、城山の開発あるいは運動公園の建設等々首都圏の海浜リゾートタウンの開発には着々とその歩を進められていると認識をいたします。

しかしながら、生産環境の整備についてはいまだしの感を抱くものであります。本年度観光農業施策としてイチゴ摘み園の建設に着手をされました。しかしいまだ小規模的なものであり、その将来性についてもまだ未知数であります。その他郷土美化植栽事業としてのツバキの植栽、ポピーの栽培等行われておりますが、さらに観光客誘致と農業生産とを結びつけたいと結びつけた、しかも自然環境にマッチした常春の国房州でしかない野菜の団地化菜の花の集団栽培はどんなものでしょうか。

特に、五十六年度より実施されるところの再編二期対策の内容から判断いたしますと、厳しい制約の中でも、地域振興政策による都道府県と地方農政局との協議による特例が設けられているやうかがわれます。したがって、これからはますます自治体としての創造性を発揮することが最も重要な課題となつてまいりました。各種の県単改善事業の策定が行われると思料をされますので、市もこれに対応して各種の事業を選択しなければならぬと思ひます。その指導方針について当局の方針をお聞かせ願ひたいと存じます。

さて、第二点でありますが、九重、館野地区の水道事業についてであります。本年度市は第二次拡張事業といたしまして豊房出

野尾、岡田、長田地区の給水区を拡充をいたしました。これにより館山市は館野、九重を除く全市に給水区を完備したことになります。家庭飲料水はすべからず上水道であるということが常識となった今日、誇り高き文化都市の一部にまだ水道がないということは、何か館野、九重地区だけは僻地じゃないかという感じがいたします。

実際、最近急速に開発をされてまいりました九重駅を中心とした国道百二十八号線の沿線には、わずか一、二年の間に住宅、事業所、商店の建設が進み、その数はすでに六十戸を超えております。この地域は地下水の水質もきわめて悪く、飲料には不適であり、洗たく用水にも事を欠き、地区民は生活に難渋しております。一日も早く水道の実現が成りますことを渴望しております。

昨年、調査費を投じまして、水岡地区の水源の調査を実施いたしました。その結果、その水質は飲料不適であり、したがって調査も中断をされ、その後何の手だても考えていないようにも判断されます。水岡地区の地下水が不適であるならば、他に水源もあるうかと思ひます。地域住民の熱望にこたえるためにさらにすんで地下資源を探索をし、一日も早くこれが実現を図っていただきたいというふうに考えるのでありますが、今後の市の方針をお聞かせを願ひたいと存じます。

次に、第三点であります。いま申し上げたこの九重駅を中心とする地域は下水道も完備をしております。この地域は去年基盤整備事業が行われたばかりであります。滝川に結ばれている排水路はことごとく農業排水用路であります。この水はかんがい

用にも使われております。家庭用の雑排水がこれに流入をすれば必ず問題が起こつてまいります。

もちろん、これらの住宅の建築にあつては、当然正式の基準によつて建設をされていると思いますが、それは書類上のことだけであつて、おそらく実態はかなりかけ離れたものであると推察をされます。便所は汲み取り、排水はためますというお決まり文句でどんどん建設がなされるならば、でき上つた住宅からは雑排水が遠慮会釈なく農業用水に入り込んで滝川に注ぎ込んでまいります。今後ますます開発が進むこの地域の下水道対策をこれからどのように指導をしていくか、市の方針をお聞かせ願いたいと存じます。

以上の三点について質問を申し上げますが、答弁により再質問をいたします。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 林議員の御質問にお答えをいたします。

第一点は農業振興の問題でございますが、御指摘のように今日の農業の現況を見ますと、社会的、経済的環境の変化に伴ひまして複雑化をしております。米の生産過剰を初めとして農産物需給の不均衡、経営規模拡大の停滞等大きな問題を抱えているわけでございます。

このような事態に対処するため、地域の特性に応じた農業者の創意と自主性を生かしながら、需要の動向に即応した農業生産の再編成を図ることが必要であらうと思ひます。

こうした農業振興のために、各種事業につきましては国庫補助事業、県補助事業及び市単独補助事業等数多くございますけれども

も、市の指導方針といたしましては、それぞれ各地域に適合する事業を選択し、国及び地元と十分協議して実施をするようにしております。

なお、農業と観光を結びつけることにつきましては、従来もビーの花摘み園を行つておりましたし、来春はイチゴ園を開設する予定でありますけれども、これを今後一層意欲的に進めてまいりたいと考えているわけでございます。

第二点、館野、九重地区の水道の問題でございますけれども、御案内のように館野、九重地区の水道施設につきましては、給水に必要な水量が確実に取水できるかどうか、これが最も重要な条件でございます。いままでの調査では水量、水質ともにいい結果が得られていなかったわけでございます。今後もさらに水源の総合的な調査を実施をいたしまして、早期に水道設置に努力をいたしたいと考えております。

特に、御指摘の安東地区につきましては、やはりこれは九重、館野地区全体の水道計画の中で解決をしていかなければならないと考えております。

第三点といたしまして、九重安東地区の下水道対策でございますけれども、一般に農村部の下水道対策につきましては、比較的周囲が農地であるところが多いために種々問題が生じまして、これが問題の解決のためには、農業用水路と下水路との調整が必要でございます。

この地区につきましても、地元民の協力を得まして側溝や下水路の整備を進めますとともに、一方、農地を転用し宅地開発する際には、流末のないものには下水路や側溝まで取りつけさせまし

て、またそれが不可能なものについては宅地内処理させるなど指導いたしました。宅地開発の規制規模等の関係もございますけれども、現状に即して環境の整備を図っていきたいと考えております。

以上、答弁を終わります。

○一番（林 豊君） 再質問いたします。

いま、市長さんの答弁では、まことにアウトラインだけで具体的なことがわからないですけれども、市では郷土美化植栽事業委託料というよりなものを、これは農業予算ではございせんけれども使い、あるいは花摘み園花卉栽培委託というよりなもので合わせて約一千万ぐらいの補助金を出しておられるようでございます。これがどのぐらいの収益を上げているか、郷土美化植栽事業については収益がわからないと思いますが、花摘み園についてはかなりの収益が、わかると思います。この点についての市の統計を知らしていただきたいと存じます。

それからもう一つは、イチゴの生産対策の補助金、それから農業予算で野菜指定団地の整備近代化資金、それからもう一つは畜産複合事業の補助対策というよりなものが行われてきたわけでございまして、将来に対するこれらのものの見通しについてお聞かせを願いたいと存じます。

非常に、第二期再編対策が進んでまいりまして、米の制約、稲転に対する政府の制約が非常に強化をされてまいります。またこの飼料作物に関しても非常に将来制約をされるであろうというふうなことを農水省自身が言っております。ということは、アメリカと日本とのいわゆる貿易のバランスというふうなことを考

えますと、この稲転に対する日本の保護政策というものを米国は極度に警戒をしておるといのが実情でございます。それで、飼料も相当やはり最近高くなってきたと、いままで五、六頭飼っておりました畜産農家は、有畜農家といえますか非常に制約をされて少なくなつてしまつたというふうに考えられます。次は、私は中級の十頭から二十頭ぐらいの農家はここ数年のうちに採算がとれなくなつておそらくやめるだらうと思います。これだと、いわゆる市で指導しております畜産対策というよりなものも考えていかなければならぬじゃないかというふうにも考えられます。そこらへんについて市としてのお考えはどんなものか。

それから、最後に観光の、いま石井議員さんもおっしゃいましたけれども、観光資源の開発であります。多季型観光、多季型観光というふうにいままでも毎年のように努力をしてきたわけでございまして、なかなか多季型観光にならないというのが実情であります。

そこで、私はその一助として菜の花の栽培はどんなものであろうかということをやいま提唱をしたんですが、この団地の造成と今後の再編対策、第二期生産調整対策とが非常に私はマッチをしたいいアイデアではないかというふうに考えられるんですが、この考えについて、市のお考えをひとつお示しを願いたいと思います。

これは、百二十八号線の九重のところの大きな交差点がございまして、これから三芳の池内に通ずる道路が市の御配慮によりまして、いま舗装が完了をせんとしております。延々三千メートルにのぼる大きな道でございまして、その左側には排水路が中央に流れております。これに桜の木を植栽でもして一つの太

きを観光の拠点にならないものかどろか。これにいま言う菜の花の栽培を同時に実施をして、米の生産調整にも資することができるとはならないかというふうに考えますので、この点についての市のお考えをお聞かせを願いたいと思います。

それと、第二点の水道問題でございすけれども、地下資源を探索するんだというところで行ったわけでございすけれども水量も得られない、あるいは水質も悪いということで断念をされたわけですが、必ずしもあの地区だけに水源を、地下資源を探索をなさるということでもなく、もう少し広く輪を広げて館野、九重地区から水源が見つからないかどろか。その点についても市の方針をお聞かせを願いたいと思います。

それから、一番最後の下水道の問題でございすけれども、これは要は、指導が一番大切であるというふうに考えます。いま申し上げたように農業委員会に出てくるころの宅地転換の書類は必ずお決まり文句の便所は汲み取り、排水はためます。ためますというのは宅地内で始末してくれというのが条件であります。しかしほとんどが宅地内で始末してないというのが実情でありますので、この指導についてますますひとつ強化をする意向があるのかどろか、その点について御意見をお聞かせ願いたいと思います。

○経済部長（山田俊康君） 最初に、花摘み園の関係につきまして花摘み園の実績でございすけれども、ポピー関係の花摘み園につきましては五十五年春一万七千八百八十六、五十四年が九千三百、五十三年が一万四千百九十三というような数字でございす。

それから、市内の旅館、民宿等に入っております宿泊者花摘み

園につきましては、五十四年六千四百四十一人、五十五年の春六千四百六十七人、五十三年の春に四千八百四十三人というような数字でございす。少しづつ伸びております。

なお、期間的に申し上げますと、二月から三月ということですが、けれども、その土、日曜日に雨等が降りますと非常に人員が少なくなるというような、天候次第だということでございます。

それから、今後の各種事業の見通しということでございすけれども、先ほど市長から申し上げましたように、市といたしましては国の補助事業あるいは県の補助事業あるいは市の単独補助事業等いろいろあるわけですが、それぞれ各地域に適合する事業を地元と十分協議いたしまして選択し、実施してまいりたい。制度的に細かくいろんな制度がございすので、十分それらを地元と協議してまいりたい。このように考えております。

畜産対策につきましても、生乳の生産量も消費との関係で考えますと、どうしても現在では加工向けの処理量が多くなっております。そして年々畜産振興事業団による買い入れ措置等も実施されていくような状況でございす。当然これから生産者団体は事業費に見合うような計画的な生産調整というようなことも考えなければいけないでしょうし、当然消費拡大策についても検討しなければいけない。

市といたしましても、畜産の内で特に牛肉の需給率が輸入に頼る部分が相当ございすので、そういう面では肉牛ということでの拡大部門という位置づけもできるのではないかと。部内では現在検討して、乳用で生まれてきます雄牛の活用ということはどうなんだろうというようなこと等も含めて検討をしているところで

でございます。

それから、九重の変則十字路から池内にまいます幹線街路、道路付近に菜の花団地というような御提案でございます。地主さんも相当多いわけで、地元の農家組合等とも相談いたしまして、筆数で申し上げますと、両側で七十七筆ぐらいでございますので、稲地区、広瀬、江田それぞれ関係組合等とも相諮って検討してまいりたい。このように考えております。

○水道課長（庄司利光君） 九重、館野地区の水道の設置についてでございますが、いままでは主として地下水を対象にして調査をしてきたわけでございます。その対象も九重、館野全域につきまして地質調査によりまして最終的に一番いいということで清水地域ということであったわけでございます。しかも清水地域については付近に深井戸をもって飲料水として使っているわけでございます。そういう関係で水源の状況もある程度把握できたわけでございますけれども、最終的にはボーリングの調査をしましてその結果が日量四百トンというような結果が出たわけでございます。量あるいは水質につきまして、当初予定した減価だけで済むというような良質の水が得られないという結果を得ました関係でちょっと水源としては不向きであるという結果が出ているわけでございます。したがって、今後は地下水に限らず総合的な水源の開発の調査をいたしまして、早期に九重、館野地区の水道につきまして計画をしてまいりたい。このように考えております。

○経済部長（山田俊康君） 下水道対策とその指導ということでございませうけれども、御指摘のようにあの地域では一部農地を宅地に転用、家を建てておりますが、その際に条件としては宅地内

処理ということで許可されているものが、すでに宅地内で処理できない、こういうことでの農業用水路に内緒で流すというような問題等も起こっておりますので、今後ともそれらが守られるように指導してまいりたい。このように考えております。

○一番（林 豊君） いまの下水道の指導につきましては、将来嚴重な監督のもとにトラブルの起こらないように指導をしていただくことを要望をいたします。

それから、農業問題でありますけれども、この水田利用再編二期対策というのは五十六年度から始まるわけで、団地加算というのが今度ふえてまいります。一般作物の奨励金というのは三万五千元でありますけれども、計画加算とか、団地加算だといふものを加えますと五万円になるんだということでございます。しかしながら、その中で野菜はその性質上五千元を引き下げるんだ。ということは、野菜をどんどんつくと市場がはらんをして下落をするというふうな価額調整の面から五千元を引き下げておるんだというふうに判断をしております。

そんなわけで、全体では五千元の奨励金が下るわけで、それども、その下った分を何とか団地加算である程度補って、そして私は菜の花を植栽したらどうかというふうに考えます。

この地区は、もうすでに農地は整備をされて完備しておるわけでございますけれども、若干いま暗渠排水の工事がやられております。しかしながら、一反歩七十万円というような大きなお金を出して、そうしてつくった美田が、いまみんな遊んじゃっています。これは生産調整のおかげだと思ひますが、稲をつくっておる田は非常にきれいになっておりますけれども、稲をつくって

ない田は遊んでおります。そうして再び耕作不能であるというよりなものの中には相当あるようでございます。せっかくいい家を建てて、それを戸を閉めて三年も、四年もうちやっておくということでは、それだけの投資をしてもひとつももうからぬということですから、昔は米一俵でこの基盤整備をやるような土工さんはおそらく六、七人は頼めたと思います。しかしながら、いまは二万円の米の値段として、土工さんは二人半しか頼めないというのが実情であります。

そういう中で、せっかくの財産を遊ばせておくのは非常に私は残念だと思えます。しかも、償還金は容赦なく納めなければなりません。そんなことを考えますと、何としても地主さんを説得して、そういうものをつくって収入を上げ、この生産調整に対抗しなければならぬというふうに私は考えます。そんなわけで、ひとつ市としても精力的にこの地方の野菜の団地栽培を進めていたいただきたいというふうに私は考えているわけです。

それから、さらに多季型観光の観光資源でありますけれども、ちよっと農業とは少しかけ離れてまいりますけれども、レクリエーション団地の造成をやってみたらどうか。これはいま言うようになかなかむずかしい面もあるかと思えます。いわゆる基盤整備によって生まれたところは一級農地であります。当然土地改良法の制約を受けてなかなか宅地化するというふうなことはむずかしいかもしれませんが、山武郡の大網白里町あたりでは基盤整備事業をやった翌年からすぐにレクリエーション団地の造成にかかったというふうな話も聞いております。

そんなことから、私はいま市の大型の民宿さん、あるいは旅館

業者さんが望んでいる観光客の誘致であります。そのために、ただ海と花だけではなかなかこないと、その他の時期も利用するいわゆるテニスコートの開発をなさったらいかがであるか。これは遊休の農地がかなりございます。市としての考え方を決定すれば私はできないことではないというふうに考えます。この点についての市長さんの御意見を伺いたいと思います。

○市長（半澤良一君） お答えをいたします。

テニスコートの件でございますが、これは方々の事情をいろいろ聞いてみますと、それぞれ民宿業者が自分で、自分の営業の一環としてやっているものでございます。市が直接これに乗り出すのはどうかと考えます。もちろん、それに対するいろいろな資金的な援助あるいは系統的な資金を融資のあっせんをするというよりなことにはやぶさかではございませんが、市が直接この事業に乗り出すということは、いまのところ考えておりません。

○一番（林 豊君） 私の考え方もそうであります。市の事業としておやりになるということではございませんけれども、これは法的な制約等について市のこの問題に対する優遇措置といえますか、資金面でのあっせんであるとか、あるいは経営についての御援助というふうなものがいただけるかどうかということをお聞きしたわけでございます。

○市長（半澤良一君） ただいまのような御趣旨には十分沿って御援助できると思えます。また、したいと思えます。

○一番（林 豊君） 野菜団地の造成推進についての山田経済部長さんの御発言がないように伺っております。

○経済部長（山田俊康君） 関係農家数も非常に多いので、それら

と協議いたしまして、今後も方法的にそういう方法で努力してみたいと思います。

○一番（林 豊君） 以上で、質問を終わりますけれども、非常に苦勞した農業の実態でございますので、何とか五十六年度のこの第二期の再編対策になるべく市として努力をいただいて農家の生産をふやしていただくということを要望するとともに、九重、館野地区の水道の早期の実現をお願いをいたしまして、質問を終わります。

○議長（五十嵐 昇君） 以上で、一番議員君の質問を終わります。

次、一番議員神田守隆君御登壇願います。

（一番議員神田守隆君登壇）

○一番（神田守隆君） すでに通告してある四点について市長さんの御見解をお聞きいたします。

まず第一点、昭和五十六年度予算編成方針について五点にわたって質問いたします。

新年度の予算編成方針では、歳入面においては市税、地方交付税等の一般財源を初めとして大幅な伸びは望めないとする一方、歳出面においては衛生センターを完成させるとともにごみ処理場コミュニティセンター、公園整備、博物館等大規模な公共事業の着手年度となる見込みであり、多額の財源を必要とする状況にあると指摘しています。

市民生活を守るためにはさまざまな課題が山積しているにもかかわらず、それに見合う財源を地方に配分しない自民党政治の問題があると考えるわけですが、それだけに少ない財源をどう市民生活を擁護していく上で効果的に活用していくのかということとは

切実な問題であろうと考えます。

そこで、質問の第一点ですが、城山に天守閣をつくるということですが、その総工事費用は幾らぐらいのものと考えているのか。その建設にあたって市民に寄付を求めるといったことはないのであるのか。五十六年度では予算見込み幾ら考えているのか。お聞かせください。

私は、天守閣をつくることに、率直に申し上げまして反対いたします。それは現在の市政の状況から見ても不急不迫のものだからです。また歴史的に見ても、天守閣の存在は確証がなく、歴史の偽造にもつながりかねないと思います。なぜ天守閣をあえてつくりたいのか、市長の御所信をお聞かせください。

次に、ごみ処理場についてですが、用地取得のめどはついたのかどうか。それはどこか。お聞かせください。

第三に、国の打ち出している福祉や教育の切り捨て策にどう対処していくのかということですが、教科書の有料化や、あるいはミルク給食の廃止などそれぞれ直接父母の負担増になりかねない問題で、どう対処しようとしているのか、お聞かせ願いたいと思います。

第四に、市長交際費について大幅に削減し、その分をたえば障害者対策の財源にするなど財政に対する市長の姿勢を示すべきでなからうかと思いますが、お考えをお聞かせ願いたいと思います。

第五点、市職員の物価調整手当についてであります。五十六年度当初予算に盛り込むべきではないかと考えるわけですが、どう検討されているのか、お聞かせください。

大きな第二点、大型店の進出問題についてであります。大型店は薄利多売で安いというイメージが消費者に根強くありますが、これは事実とは違います。野菜などの生鮮食料品では小規模店の方がむしろ安いという結果を通産省が発表していますし、値段の点で見ますと、重要なことは同じ大型店でも市場独占力の強いところとそうでないところでは、同じ商品でも値段が違うということです。すなわち地元の中小商店を打ちのめして独占力を強めたところでは、それ相応に値を高くしているということです。ですから、安い価格実現に寄与しているのはむしろ中小小売店と言えます。

大型店の野放しの出店を許したならば、必ずその資本力にものをいわして館山の小売市場は大型店に支配されるようになり、中小小売店は廃業を余儀なくされ、その結果、適正な競争はなくなり、消費者は選択の自由を失い、いやがもうでも高い価格の商品を買わざるを得なくなります。

消費者利益を守るには選択の自由を確保し、適正な競争を維持することでなければなりません。大型店の進出を規制し、地元商店を守るということは、消費者利益を守ることと相反するものではありません。

こうした視点に立ち、館山の小売業はどうあるべきか、私どもの考えを率直にお話し、市長のこの問題についての所信をお伺いするものです。

まず第一点は、館山市は三方を海に囲まれ急激な人口増も考えられない商業立地にあります。その意味で、消費人口はほとんど一定水準があり、それに見合う一定の購買力の大きさがあります。

この購買力の大きさに対応して消費者の選択の自由と小売店の適正な競争を前提にして、それ相応の売場面積の総体としての大きさが考えられるわけです。

これを、適正売場面積の基準といたします。こうした考えを推し進めれば、各業種ごとに、また大中小の店舗規模の面からも、それぞれ適正な売場面積基準ともいえるべきものが考えられるわけです。この基準表ができれば、それとの関係でどの業種は店舗面積は過剰なのか、逆にどの業種が少ないのか、大中小の商店の規模別ではどうなのか、つかめることになるわけであります。すなわち館山市にどれだけの、どういう商業施設が必要なのか総合的に把握し、この基準に基づいて大型店の出店に対しても総合的に判断して、どれだけ過剰なのか具体的に把握することが可能となるかと思えます。そしてこの基準に基づいて商調協等を通じ実質的に規制をしていくべきではないかと考えます。そしてこうした総量規制ともいえるべき視点から、市の指導要綱も変えるべきではないかと考えるわけであります。

第二点は、商業の配置計画の問題であります。都市計画図では自然発生的に形成された商店街を商業地区とするだけで、計画の名に値するものではありません。大型店が出店を計画したところはこの自然発生的に形成された商店街とは離れたところになっています。このことは、商業地というもののついていままでの固定観念では考えられなくなっていることを示しています。その要因としては車社会の進行とか、一店で買える便利さなどいろいろ考えられます。要するに消費者の消費動向が変化しているのです。

市は、この変化しつつある市民の消費動向に対応して全市のな

立場から商業の適正配置計画、あるべき商業配置計画をつくるべきではないか、そしてこの計画に沿って新たな商業地区をつくる。こうした視点から、秩序ある商業地づくりを指導すべきではなからうかと考えます。住宅環境や、あるいは学校環境を破壊しかなない大型店の出店は、こうした立場からも規制していかなければならないと考えます。

わが党は、国会での論戦を通じて、環境や教育など町づくりの視野からの基準も大型店の出店にあたって入れるべきことを主張し、国も運用にあたってそうした視点を入れることを認めています。

第三点は、当面の問題です。総量規制にしろ、商業配置計画にしろ、一朝一夕にできないことは明らかであります。駅前周辺整備調査は今年度中に終るとしても、調査結果を踏まえてどうするのかということがこれからのことです。対症療法ではどうにもならない事態になっています。抜本的な商業振興策が検討されねばなりません。ところが、大型店の進出が済んでしまえば、そうした努力はすべて水泡に帰することになりかねません。当面、大型店の進出凍結はどうしても必要です。急いで、しかも慎重に、かつ抜本的な商業振興策を検討するには、市としてそれなりの人的な配置を十分充実に、観光課などを強化して考えるべきではなからうかと考えます。

第四点は、大店法についてであります。大店法の法的権限というところから見ると、紛争が市レベルで起こっていても、地域経済に深刻な影響を及ぼす問題であるにもかかわらず市には権限はありません。大型店の出店計画のたびに個別的に解決を図らなければ

なりません。ちよいと子供のゲームにモグラたたきゲームがあります。それと似たようなのがこの大店法ではなからうかと思えます。適正な競争と選択の自由を確保し、地元商店と消費者を守り、地域経済を発展させるといふ視点は、大店法には欠如していると言わざるを得ません。届け出制を許可制にすることや、市の権限を強めることなど大型店の出店に対する規制を強化する法改正を求めるべきではないかと考えます。

以上、大型店進出にあたって、小売業の面積の総量規制や、あるいは商業の配置計画、大型店出店の当面凍結、さらに大店法の改正問題など四点にわたって政策的提言をしたわけでありすが、市長のこの問題に関する御所信をお聞かせ願いたいと思います。

大きな第三点は、西岬の学校統合問題についてであります。

西岬の学校統合は五十六年度実施との当初の計画はもはや不可能と思いますが、いかがですか。もしそうだとすれば、市当局は五十七年度に実施したいという、あくまでも計画は進めたいという意向なのかどうか、お伺いいたします。

統合反対の論拠として、西岬中の雨や風大変その強いときには、子供たちが通うのに非常に問題がある。こういう点が指摘されて、さきの議会でも実際にそんなにひどいものか見てみる。こういう答弁があったわけですが、実際見ての感想はどうであったのか、お聞かせ願いたいと思います。

また、たとえ西小では、がけ地のために現在の校地では建てかえができない、校地面積も狭いということが統合の理由にありました。住民合意で適切な用地があれば、統合ではなく、建てかえを検討するとお約束できるのかどうか、お伺いいたします。

最後に、大きな第四点、し尿収集の従量制についてであります。クリントイレを使っているある家庭で従量制になっていきますが、その収集実績が少ない月で百八十リットルから、多い月で三百リットルを超える。大変に変動が大きいわけです。その差は料金で見ても七、八百円に相当いたします。このお宅では二人暮らしで、特にお客さんが来ていたということもなく、特別に使用量がふえたり、減ったりということはなかったということです。どうして収集量がそんなに変動するのか説明してもらいたいと、私のところに来たわけでありす。常識的に見ても変動の幅が大変に大きいわけで、どうしてこういうことが起こるのか不思議なことをだと思っております。

そこで、バキュームカーの収集量のはかりがどれだけ信頼性があるものなのか、誤差はどの程度あるものなのか、この際、明らかにしていただきたいと思ひます。

また、うちのはどうも変動が大き過ぎると、こういう苦情がどのぐらいあつて、どう対処されているのか、お聞かせを願ひたいと思ひます。

一般家庭では人頭制によって料金を決めていますが、これを従量制に変更するとの話を聞いております。現在でも比較的収集量の多いところで、収集量について信頼のおける測定ができないとすれば、より少量の一般家庭の場合は、その収集量そのものが誤差の範囲内に含まれてしまふなど考えられます。大きな混乱をもたらすことにもなりかねません。十分なる事前の条件整備なしに従量制への移行は無理だと考えるわけですが、この点についてのお考えをお聞かせ願ひたいと思ひます。

以上、四点到わたつて質問いたしました。答弁により再質問をさせていただきます。

○議長（五十嵐 昇君） 以上で、休憩いたします。

午前十一時五十五分 休憩

午後 一時 二分 再開

○議長（五十嵐 昇君） 午後出席議員数十九名、休憩前に引き続き会議を開きます。

午前中の一番議員君の質問に御答弁をお願いいたします。

（市長半澤良一君登壇）

○市長（半澤良一君） 神田議員の御質問にお答えをいたします。

第一点は、昭和五十六年度予算編成方針についてに関連した問題でございますが、第一点博物館分館の件でございますけれども、大体一億九千万程度を予定をいたしております。

これは、すでに五十三年の十二月に里見史料館建設促進会という会がございまして、二万三千二百二十七名の署名をもつて、この建設の陳情がございました。そういう意味で大方の市民がこの建設を望んでいるものだというふうに考えます。そういう意味だけでもつくる意味がありますし、また先ほど教育長が答弁をいたしましたように、天正十六年当時の代表的な平山城をつくる。そういうことで大変意味のあることだと考えております。

さらにまた、里見史料館建設促進会の方々が陳情をいたしましたときに、ぜひつくってもらいたい。ついては、われわれで市民の寄付を集めるといふ御発言がございました。いまでもその気持ちに変わりはないようでございますので、そうした浄財は受け入れるつもりであります。

第二点、ごみ処理場の位置が決定したのかという御質問でございますけれども、現在折衝中でございます。

第三点、教育、福祉に対して政府がこれを切り捨てようとしている。それに対して市はどう対処するかということでございますけれども、これは国の問題でございますので、国の方針に従いたいと思いますが、教科書の無償交付の問題につきましては、全国市長会からもこれを取りやめるように昨年度は陳情をいたしました。その趣旨はいまでも続いていると思っております。

第四点、市長交際費のことでございますけれども、これを廃止するつもりはございません。

調整手当の件でございますけれども、これはやはり近隣市町村あるいは国との関連において慎重に考えなければいけない問題だと思っておりますけれども、そのつもりでおりますが、五十六年度予算の当初予算で盛るつもりはございません。

次に、大型店の進出問題に関連してでございますが、いろいろ御提言がございましたけれども、これは基本的に社会観、経済観の相違でございます。全く私とは考え方が違います。

論理的に、われわれの社会は自由主義経済社会でございますので、館山市の小売店舗の総面積を総量規制する、あるいは各業種別に適正配置計画を立てる、そういったようなことは不可能でございます。経済は生きているものでございまして、一定の配置計画を決め、あるいは総面積を決めて営業したいという方を締め出すというようなことは、これは不可能でございますので、考えたこともございません。

大型店の進出につきましては、これを市町村の法的規制に対す

る権限を強めろということでございますけれども、現在の改正された大店舗法の中で、市町村長は意見を申し出ることができるようになっておりますし、また商調協におきましても従前から国や県や、市からそれぞれ特別委員として参加をしておりますので、地元の意向を十分積極的に反映することができると考えております。

第三点、西岬地区の学校統合問題につきましては、教育長の方から御答弁をいたします。

し尿処理の従量制についてでございますけれども、現在のパキューム車の計量器は目盛りが十八リットルきざみのため、多少の読み違いが出ることは考えられますけれども、それはあくまで数リットルの範囲のことで、大幅な違いはないはずでございます。

従来、苦情のありましたものについては、その都度保全公社職員が実情を調査し、解決しておりますが、主な原因としては最近多く見受けられます無臭トイレ等水を使用するトイレの場合、防臭のための張り水、便器の掃除の水等の使用ぐあい、あるいは雨水の流入等によるものでございまして、使用方法等につきましても相談し、納得していただいておりますが、今後とも十分考慮してまいりたいと思っております。

こうした十分事情を検討のうえ、従量制に移行すべく検討中でございます。

以上、答弁を終わります。

○教育長（安田豊作君） 西岬中の統合についてでございますが、五十六年四月を期して統合する計画をもって地元民と折衝してまいりましたが、現時点においては十分なる理解を得られないもの

と判断をいたしましたので、一時話し合いを中断しております。
なお、地区代表からの要望もありますので、今後この問題について話し合いを続けて円満なる統合を実現したいと、こう考えております。

それから、西岬中学への通学路に風雨が強いという問題で、これについては課長、その他何回か行きましたけれども、この地形と西岬とは地形的に違いがありますので、こっちで強いとき向こうが弱かったり、こっちが何でもないときに向こうが強いというような状況だそうですが、特にあそこがひどいのは冬場ひどいようですので、これらの問題でもう少し検討してみたいと思います。

それから、西小土地が見つかったら建てかえるのかということですが、小学校の建てかえについては現在考えておりません。

○一番（神田守隆君）　まず、第一点の五十六年度予算編成方針の天守閣の問題でありますけれども、五十三年十二月に二万三千余の陳情があった。そういうことでありますけれども、五十六年度の予算ということでは当時とまた状況も変わっているわけでありまして、これをそのままつくるという問題について私は反対なわけですね。というのは、いまの予算の非常に厳しい中で、の予算を使うという、効率的な効用ということを考えれば、大変に不要不急のものだ、こういうふうに考えるわけですね。なぜならば、本当にいま史料館が必要なのか、だとするならば、なぜ分館をつくる、あとから本館をつくると、こういうことをするのか全く理解のできないことであります。これは社会教育施設として本當につくるといふ意味があるとすれば、まずつくるべきが本館ではな

いんですか。ところが、先ほどの話では分館をさきにつくる。このへんの事情というのがどういふことなのか全く理解できません。御説明を願いたいと思います。

それから、寄付を受けつけるというお話でありますけれども、こういう社会教育施設をつくるにあたって、寄付を受けつけてつくるなどというのは本来道が違うんではなからうかというふうに思うんです。このへんでは、どうも天守閣というのは社会教育施設というよりも、観光施設としての理解が先行しているのではなからうか。こういう危惧を感じるわけであります。これについての御説明をお伺いしたいと思います。

さらに、社会教育上ということを盛んに強調しているわけでありすけれども、そういう視点から天正年間の代表的な平山城だ、こういうことを言っていますけれども、実際にあそこに城があったのか、なかったのか。あるいは天守閣を持った城があったのか、なかったのかについては結論が出てないというふうに伺っているわけです。そういう事情のもとで天守閣をつくることは、確かに代表的な平山城というのがモデルという意味はあるでしょうけれども、住民の目から見れば、あたかもあそこにそうした天守閣があったこうした錯覚をうむ、誤解をうむ。大変これは教育上問題ではなからうか。いかがお考えであるか、お聞かせ願いたいと思います。

第二点のごみ処理場ですけれども、まだ場所の選定についてそれぞれ折衝中である。こういうことでありますけれども、出野尾部落とのし尿処理場の用地取得の条件として、ごみ処理場を持つてこない。こういうお約束をしたという話を聞いたわけですね。

ども、事実であるかどうか、お聞かせ願いたいと思います。

それから、国の打ち出している福祉、教育の切り捨て問題ですけれども、国の方針に従うという基本的な考え方のもとにあるようですから、大変残念だというふうに言わざるを得ません。全国市長会では教科書の有料化の問題については国にやめるように、こういうようなことを進言していると、またその内容についてはいままも生きているんだ。こういうことです。それはそういう立場で大いに主張していただきたい。こういうふうに思うわけがあります。

さらに、ミルク給食の廃止の問題、これは父母負担の増加というような問題にはね返ってくるのかどうか。だとすれば、それなりにどういう対処をしようとするのか、お聞かせ願いたいと思います。

さらに、間違いたしまして、市の予算編成方針を見ますと、単独事業の縮小ということが盛んに言われています。単独事業というのは大変市民生活に結びついた事業が多いわけであり。現実に来年の予算の中でどういう単独事業を縮小しようとしているのか、お考えがあればお知らせ願いたいと思うわけであり。市長交際費については廃止する気はない。こういうお答えですが、私も廃止をしろと言ったわけではありません。削減しろと言ったわけであり。削減ということについてのお考えをお聞かせ願いたいと思うわけであり。

それから、物価調整手当については当初予算にする考えはないということですから、これはこれ以上質問はしません。

大型店問題でありますけれども、社会観、考え方の違いだ。こ

ういうことで市長の答弁ですけれども、そういうことでは議論そのものが成り立たないのではなからうかというふうに思うわけがあります。

現実に、総量規制ということで埼玉県の上福岡市ではそういう指導要綱をつくって、現実にそれに基づいて市内の店舗面積の基準、あくまでも指導要綱ですから、それなりの規制力という点では確かに弱いわけです。営業の自由は保証する。いま営業の自由ということを考えるならば、大型店が進出して中小小売業者が営業ができなくなるということがむしろ問題ではないんですか。営業の自由を保証するために大型店の横暴な進出については規制をしなければならぬ。これは営業の自由を守ることだと私は考えるわけであり。現にそういう点では埼玉県の上福岡市ではそういう考え方から施策を進めているわけであり。ですから、この自由社会のもとで云々、不可能だということはないわけであり。ですから、当然検討するべきではなからうかと思えます。

それからまた、適正配置の問題であります。これもあくまでも館山市の都市計画をどうするかという問題であります。都市計画で商業地区をどう配置していくのか、これは市として当然考えるべきことではありませんか。それに基づいて指導をしていく。確かに住宅地に商店が進出してそれを規制はできません。しかしながら、市としてどういう都市計画、町づくりをしていくのか、こういう考え方を持って、それに基づいて指導していくというのが、これは自由主義のもと、自由経済のもとでも当然のことではありませんか。いかがお考えでありますか、不可能だというよりなことでは全く納得ができません。

西岬の学校統合問題でありますが、住民合意で適切な用地があれば統合ではなく、建てかえを検討するのかどうかということに對して、小学校の建てかえについては検討していません。これでは五十七年度以降とにかいまの市のつくったこの計画に住民がうんというまで押し通すんだ。こういう姿勢だと言われてもしようがないんじゃないですか。住民の合意を得る、本当に住民の方が建てかえということ、こういう場所があるではないか、学校統合しないでこういうふうにしていただきたい。こういう具体的な案が出たら検討するのはあたりまえではないですか。それだったら住民本位はどこにいったのか大変理解できないことであります。もう一度この点について住民の方から小学校の建てかえについて、統合ではなくていまの学校を充実するという方向で考えられないか、そういうもとで具体的案が出てきた場合、検討する、このことはお約束できないのかどうか、お聞かせ願いたいと思うわけであります。

以上、お願いします。

○市長（半澤良一君） 本館を建設するにつきましては、これはりっぱなものを初めからつくらなければいけないという考え方で相当準備期間が必要だ。そういうことで本館が遅れたわけでございます。

分館につきましては、観光的な要素も含めております。

ごみ処理場、出野尾地区につきましては建設をしないという、ごみ処理場を出野尾地区には建設をしないという一応の約束はしてございます。

ミルク給食につきましては、もしこれが廃止ということになり

ましたら、給食組合と相談をいたしまして検討をいたします。市長交際費については、これは削減をするつもりはございません。

大型店の問題でございますけれども、大型店の出店につきましては、すでに現在大店舗法というもので決まっておりますのでありまして、それによって既存の中小商業者との調整を図ることになっているわけでございますので、それで十分だというふうに考えております。

また、規制の問題につきましては、現在すでに都市計画法に基づく用途指定が決まっているわけでございますので、それによって十分だというふうに考えております。

博物館の分館につきましては寄付を受けることは筋違いではないかというお話でございますけれども、住民の方からそういう要望があれば受けつけるにやぶさかではないというふうに考えております。

○教育長（安田豊作君） 西岬の統合問題については現在話中である、ただ現在中断してあるという段階ですから、それを乗り越えた計画ないし考え方は、私どもとしては持つことはいけません。こういう解釈でございます。

○一番（神田守隆君） それでは、城山の天守閣ですけれども、寄付はやぶさかではない受けつけるのは。ということは、寄付はなくても市の予算で十分できるだけの予算を組むと、こういう意味であるのかどうか。

それから、先ほど答弁なかったんですけれども、社会教育上、なかったかあったかわからないものを、モデルですから、モデル

だという言い方をすれば、そのとおりですけれども、住民からすればそこにあったというふうに考えるのはあたりまえですね。この点どう考えるか。

博物館ですから子供さん、小学生、中学生の教育上大変重要です。教材として使用する。一般市民もそこに行つて郷土の歴史やなんかについて理解を深めるということですから、当然料金は無料だと思えますけれども、この点について。

それから、ごみの処理場については約束があったということですから、市長がやった約束それがほどこにされるといふのは、それ自体大変な問題だろうと思うわけで、市の施策に対する不信感のもとになりますから、慎重な対応をお願いしたいということですね。

それから、給食については検討する。こういうことですから、父母の教育費の負担にならないように、こういうような施策を十分とって考えていただきたいというふうに思うわけですね。

それから、現実に単独事業の縮小が予算編成方針の中でうたわれていますけれども、具体的にはいまだどういふ事業を縮小するとたとえば、館山市では子供さんの医療費、小学校未満の子供さんの医療費大変進んだ施策をとつておる。そういう問題について縮小するといふ考えはないというふうに理解していいのか。具体的にいままでどういふ事業について検討しているのか、お聞かせ願いたいと思います。

○市長（半澤良一君） 社会教育施設であるから無料だ、すべきだという御意見ですが、御意見として承っております。社会教育施設だからすべて無料でなければいけないということはありません。

それから、この歴史的な意味でございすけれども、この建設につきましては、過去三年間にわたりまして一千万ほどの予算で城山城址の調査をしたわけでございます。その中で、天守閣はあったと見ても不思議ではない。こういう大体の結論に達したので建設に着手するわけでございます。

それから、単独事業の削減ということでございますが、これは予算編成の段階でございすので、十分その編成の過程の中で考えていこうと考えておりますが、御指摘のような幼児の医療費についてはそういう考え方はございません。

○一番（神田守隆君） 寄付なしにでも十分できるだけの予算を組めますか。

○市長（半澤良一君） その点については、里見史料館建設促進会の方からの申し入れを待って、申し入れがあれば予算編成の段階で寄付を組み込みます。

○一番（神田守隆君） 里見の史料の団体ですか、その申し入れというところですけれども、いま私がここで聞きたいことは、その寄付というのは結局は市民の負担になるわけですから、そういう視点から、寄付なしでもこれをやるといふお考えであるのかどうか。その点についてどうかを。

○市長（半澤良一君） この建設については初めから寄付をいたしますからつくづくこれという要望でございすので、寄付は見込むつもりでおります。

○一番（神田守隆君） いままでの論議で、天守閣については寄付を求めてやるという考えで、しかも料金の問題についても社会教育施設だから当然無料だというのが本来の趣旨だと思つていますが、

その点についても必ずしも明言をされない。大変残念なことだといふふうに思うわけですね。しかも、いまの予算の中で天守閣をつくるというのは大変市民の負担の大きなものになるわけですから、いま私はこういう時期に天守閣云々という話は、不要不急のものとして見合わせるべきだ。こういう結論をいまの論議の中でも強く感ずるわけであります。市長はそういう中でどうしてもつくるといふお考えですから、これは市長の考え、私は絶対それを認めるわけにはいかぬ。こういうことですね。

それから、大型店の進出問題についてであります。市長の考えでは大店舗法の調整で十分だ。こういうお話ですから、これは大変いまの小売業の立場を不安に陥れる発言でなからうかといふふうに思うわけであります。実際に大店舗が、現行の大店舗法の調整に基づいて申請が出され、そうして出店が、それも六万平米を超えるような数字が具体的に出現しているわけですから、こういう事態になったら、いまの館山市の商工業者、小売業者こういうものが職を、店を閉めざるを得ない、大方がそういう事態にならざるを得ないのではなからうか。市長はその影響についてどのような考えを持っているのか、どういふ結果になると考えておられるのか。見通しをお聞かせ願いたいと思います。

○市長（半澤良一君） たいい六店ですか、大型店の出店予定があるようにございますが、その総面積は六万八千平米だということも十分承知しておりますが、そういうむちゃな出店が大店法の中で許されるはずはないといふふうに考えております。

○一番（神田守隆君） むちゃなことでは私と同じ認識に立っていると思われませんが、一体何平米ぐらいであればむちゃじゃ

ないということになりますか。

○市長（半澤良一君） それは商調協の審議の過程の中でやるべきだと思えます。

○一番（神田守隆君） 商調協の審議の過程の中で、なるほどなかなかうまいお話をされるわけですが、それでは商調協に臨むにあたって市としては主体的な立場、どういふようなお考えで臨まれるのかという問題が当然あるわけです。その目安ですね。そういうものについては全く持っていないということなんでしょうか。六万平米ならばこれはむちゃだと言った。だけれども、何万平米ならばいいのかというお話については、全然自分としてのお考え、市が商調協に臨むにあたっての具体的な数字、どの程度という問題を考えておられるのか、お考えはないということですか。

○市長（半澤良一君） それは今後の過程の中で十分検討して、商調協が開催されるまでの間には結論を出したいと思えます。

○一番（神田守隆君） そうすると、先ほど私が言った問題にまた戻るわけです。そういう具体的な基準、数字をどういふ視点から考えられるのか。大店法のむちゃだというならば、それなりの規制をしなければならぬわけです。規制という言葉がきつければ基準といえますか、その基準というのはどういふ視点から考えられるのか、どういふ観点からされる基準なのか。その考えの骨格になるものは何なのか、お答え願いたいと思います。

○市長（半澤良一君） 商調協には商業者代表、卸商代表等が出るわけでございますので、そういう方々の意見を聞きながら、また消費者の意見を聞きながら進めていきたいといふふうに考えます。

○一番（神田守隆君） この大店舗の商調協の話し合いの中で、市

に商工業の方も、あるいは消費者の方も望んでいることは、単なる仲裁役、AとBがあつてそれぞれ言い合いをしている。それから市として仲裁役に出るということを期待しているということではなくて、市もその程度の考え方ではなく、積極的に市の商工業のあり方をどうあるべきなのか、それにはいまの店舗の面積総合的に把握してどうなのか、館山の消費人口の中から考えてどの程度が必要なのか、多過ぎるのか、少な過ぎるのか、そういう明確な基準を持つて臨むべきではないか。それでなければ単なる仲裁役に過ぎないのではないか、そういうことを言っているわけなんです。先ほど自由主義云々という話がありましたけれども、現実的にそういうことをせざるを得ないのではないか。いかがですか。

○市長（半澤良一君） 大型店の面積がどのくらいであるべきかということは、これは単に館山市だけの消費人口を考えるのではなくて、この周辺の商圏も考えなければいけませんし、またその店舗ができることによって、さらに魅力ある商店街づくりが行われて商圏が拡大するということも考えなければいけません。そう簡単は何を基準にして出すべきかということは、いまここで申し上げられません。

○一番（神田守隆君） 結構です。館山の商圏が拡大されるということもあり得ると思います。しかしながら、館山は三方海に囲まれている。これはもう絶対的な条件でありますから、館山の現在ある商圏、大型店がくれば一定の商圏の広がりはあるだろうと思いますけれども、しかし、それにしてもそれほど大きな商圏は望めないということは衆目の一致するところだと思います。

いずれにしても、そうした中で商圏の範囲ということを考えて

えれば、おのずとそこから一定の基準、売場面積の基準というのが考えられるのではなからうかと思うんです。それは商圏を十万とするのか、あるいは十二万と考えるのか。いずれの場合があるにしても、十万なら十万、十二万なら十二万なりにそれぞれの一定の売場面積の基準というものは考えられるでしょう。いかがですか。

○市長（半澤良一君） 経済は流動するものですから、ここで一つの基準を決めて発言することはできないと思います。

○一番（神田守隆君） 経済は流動するとか、一般的な話をされましたけれども、現実の問題ですから一定の基準を考えて、現実的に基準を考える。そうして市が、問題なのは商調協に臨むときに単なる調整役という範囲を出ないそういう立場で出るのか。そうじゃなくて、一定の市としての具体的な検討案、どの程度ということを持って出るのか、こういうことでなからうかと思うんです。

私は、実際の市で商工観光課で、こうした商工業の問題を扱っている、先ほどの程度が適当な面積かということ議論をすればこれはそれ自身大変な議論ですし、それには相当の陣容も充実させなければならぬ。すぐ出る問題でもない。十分調査が必要になると思うんです。そういう点から見ますと、この商工観光課の商工業の問題を扱っている職員はいま何名ですか。

○経済部長（山田俊康君） 三名です。

○一番（神田守隆君） 実際三名といいますが、この問題で実際にやる方はまだ内容が少ないのではなからうか、三名の方がフルに活動できるというふうには現在の陣容から考えられません。それにしても非常に少ない。やっぱり館山の小売業者がどうあるべ

きかという重大な局面にきているわけですから、その商工観光課特に商工業部門これは商工会議所の中にもたくさんスタッフ、職員がいるという話も聞いていますけれども、それだけでなくて市としての立場をきちんとしていくにはそれだけの調査が必要で、すし、それだけの確信を持った基準といえますか、そうしたものを打ち出していく必要があると思うんです。それなりの陣容の強化が図られてしかるべきではなからうかと思いますが、市長さんのお考えいかがですか。

○市長（半澤良一君） 人数の問題ではなからうかと思ひます。勉強するかしないかの問題だろうと思ひます。

○一番（神田守隆君） 勉強するかしないかという問題、もちろんそうです。頭数があればいいということではない。そんなことは百も承知で言ってるわけです。それにしても陣容の問題考える必要がある。それでなければ、いま重要な局面の中で、館山の商業の行き先どんなことになるかわからぬ中で、暗中模索の中で商店のおやじさん、こういう人たちはいつ廃業しようか、どういふうな転業しようかという中で、市が全く何にもできない。こういうふうになりかねないわけです。そういう市内の零細な商業者のそういう気持をよくくんでいくような姿勢をとらなければならぬというふうに思うわけです。それにはやはりいまの陣容では決定的に不十分だというふうに思うわけであります。

それから、大店舗法ですね。これで十分だというお話ですけれども、それはちょっと信じられないような御発言なんですけれども、現実には市のレベルで紛争が起きている。市長が何ができるかといったら、商調協に参加するということ、意見を述べるとい

こと。それから知事に対して意見の具申をすることができ。あくまでもそれだけに過ぎないわけです。いまの大店舗法では届け出制だ。許可制ではないという原則をとっている。こういう問題についてやはりもっと規制を図るべきではなからうか、こういう点についての市長のお考えをお聞かせ願いたいと思ひます。現行のままでもいいと本当にそう思っているのか、ちょっと信じられないから、市長のこれに対する考えをもう一度お聞かせ願いたいと思ひます。

○市長（半澤良一君） 現行の大店法の活用によって十分対処できるといふふうに考えております。

○一番（神田守隆君） 大変残念な話ですが、わが党が国会でこの問題について論議した中で、町づくりの視点から大店舗の進出については規制を図るべきだ。こういうことは運用の中で考えていくんだという国会の中で答弁を得ておるわけです。これは町づくりの視点です。いままで論議が出ている点と違ひけれども、そういう点を十分踏まえて、市の商調協に臨む態度なり、意見を述べる際に十分そういうことを踏まえていたきたいということをお願いしたいと思ひます。

学校の統合問題であります。住民合意で適切な用地があれば統合ではなくて建てかえを検討するんだというぐらゐの約束でありませんか。それがなければ結局いまの話し合いというのは、市の案をいつのむかという、そういう話し合いになるわけで、西岬の教育をどうするか、小学校、中学校それぞれの教育をどうしていくのかという、そういう立場からの論議にはならないだろうと思ひます。そういう論議によらなければ本当の問題の解決にはな

り得ない。そういうことのためには住民の間から学校統合についてどういふふうにすれば、たとえば西小こに用地をつくらうじやありませんかと、具体的な案が出たら検討しましょうというぐらひは言えませんか。

○教育長(安田豊作君) いままでの話し合いの過程においては、そういう話が出ていませんので、こつちからそういう話にまで現段階では考えておりません。

○一番(神田守隆君) 大変に残念な答弁しか得られない。本當に住民の立場で、文部省の基準の中でも住民との十分な合意がなければ統合してはいかぬのだということになっているわけですからそれに沿って、その考え方を十分踏まえていただきたい。そういうことで私の質問を終わります。

○議長(五十嵐 昇君) 以上で、一番議員君の質問を終わります。

次、一九番議員石井輝久君御登壇願います。

(一九番議員石井輝久君登壇)

○一九番(石井輝久君) 私は、今次定例会に提案されております議案の審議に先立ちまして、当面している市政の諸問題の中の六点について質問しようとするものでありますが、質問に入る前に最近の半澤市政につきまして若干の所感を申し述べさせていただきます。

市長は、市民の中からわき起こってまいりました城山に城を築いたらどうかとの要望にこたえまして、去る四月一日から市の教育行政機構の中に博物館準備室を設けられ、県から専門的な職員として島津晴久室長の出向を仰いでスタートを切ったことは、多年にわたる強い市民の要望があったことにかんがみまして、時宜

を得たものであらうと率直に評価するにやぶさかでございます。しかも、市長がこのところ労をいとわず市内の各方面の方々の参集を求めて意見を徴する努力を重ねておられるようであります。が、民意の尊重ということとこれまた評価するものであります。一部市民の中には意見を含めて多少の批判の声を聞かないわけでもありませんが、いづれにしても将来館山市民のいいの場となるだけでなく、歴史的な資料をできるだけ数多く収集し、私どもが誇るに足る文化財が陳列され、さらに観光の拠点に発展させることができれば幸いだと期待するものであります。

さらにまた、四月一日から市の行政機構の中に都市開発室が新設され、これまで県から北村健彦室長が出向して来られ、鋭意市の総合的な都市改造を目的として検討を始められたことは、館山市百年の大計樹立に第一歩をしるされたものとして、これまた率直に評価いたします。

本市は、かつて十萬都市の建設を目指したこともありました。また近隣町村の合併をもくろんだこともありましたが、それらはいずれも絵に書いたもちに似て、遂に実現の可能性を失ってしまいうたかたの如く消えましたが、それにかわって市の内容を充実させ、たとえ人口は多くなくても、緑に恵まれ、澄んだ空気を吸って、しかもそこに住む市民生活を豊かにする方向に歩を進まれようとする最近の半澤市政に対し、一層の御精進を期待しながら、以下順次質問に入ります。

質問の第一点は、通告申し上げましたように市首脳部の執務の姿勢についてであります。

市の首脳部の最高者は、いりまでもなく半澤市長であり、これ

に次ぐものは小倉助役であります。さらに収入役があられ、管理職として第一等級の方々、また一等級の方々がおられる。それぞねの立場で熱心に職務されていることは十分に承知しております。ところが、最近、半澤市長が出張されて不在だったことがあります。いや、これは困った。市長が不在なら小倉助役と相談するかと思つて、助役を探しますと、おられませんか。どこに行かれたのかと聞きますと、ヨーロッパに出張しておられるとのこと。ヨーロッパでは電話もかけられない。これは私の体験談でありまして、大変困惑したわけでありました。

特別職の首脳二人が不在ではやむを得ないから、せめて三役の一人の太田収入役さんはどうかと思つたら、これまた出張。もつとも収入役さんの方は一日だけでありました。

私は、外国への旅行でありまして、それが直接的にあるいはまた間接的に市のためにいささかでも裨益するところがあれば結構ではないかという見解を持つものであります。しかし、市長と助役がともに不在でありましては、館山市の行政はまさに船長不在あるいは羅針盤を失ったさまよえる船の如き感を深くします。そこで、お伺いいたします。市長は今後このような市長と助役がともに不在が続くような首脳の職務体制を厳に慎む所存はないのかどうかであります。これが第一点。

次に、もしこのような職務体制を続けるとするならば、かつて銚子市において助役二人制をとつたように、本市でも助役を二人にした方が市民に対して市政執行の上で利便であるうかと思ひますが、この点に關しての御所見を承りたいと存ずるのであります。もっとも、この場合には大変な人件費の増大につながりますので

実際には至難でありましようが、いずれにしても一応承つて次の質問に移ります。

質問の第二点は、本市の職員の平均年齢が県下で一番高いのを放置しておいてよろしいかどうかの問題についてであります。

この問題について、私は過去に幾つかの提案もしてまいりましたが、実際には実効を上げることがきわめてむずかしいという理解はしているつもりであります。

私は、去る三月十七日にも質問いたしました、まず第一に、参考のために現時点での一般行政職の平均年齢は何歳何月か。それからまた平均給料月額は何らか。職員数は何人か。現時点でのこれらのことについて伺います。

次に、平均年齢を低くするための方策の一つとして、現行の慣行上の退職年齢六十歳を待たず管理職の方に退職していただく。市長はその考えがありや否やについてお伺い申し上げます。なければならぬ、あればあると簡明にお答えを願います。

さらに、管理職の勸奨退職の場合、みずから後進に道を譲るのでありますから、通常の勸奨退職扱いに対して、プラスアルファの措置を講ずるなどの温情ある措置を示しつつ実施する考えはないか。これは新たな提案であります。当局のお考えをお聞かせ願いたいのであります。

質問の第三点は、国鉄館山駅前の再開発と西口開設についてであります。これは次の第四点の質問とも関連が出てまいります。私は過去十回前後にわたつて駅前再開発について提言もし、発言もしてまいりましたが、冒頭に触れましたように、ようやくいままさにその緒につかんとしていることはまことに喜ばしく存ずる

ものであります。九月議会でも質問しましたので、今回は六月議会での西口についての質疑の整理をしてみたいと思います。六月議会でも市長はこのようにお答えになつておられます。「崎線橋一本つくるにいたしましたも相当の経費を必要といたすわけでございますので、今後国鉄当局の意向を打診をいたしたいと考えております。」このように答弁されておりますが、当局の打診の結果を承りたいのであります。

駅前開発事業との関連における西口開設ということであれば、百年河清を待つが如しといつてはいささかオーバーではありましょが、相当の年月を要はしまいかと私は考えます。仄聞するところによりますと、最近になつて民間の強い要望が高まつてきたとも聞きますが、これは西口の開設についてであります。とりあえず来年の夏あたりまでに間に合わせるぐらいの御決意はないかどうか、これについての御意見を伺います。

第四点の質問は、商店街の近代化の促進と大型小売店舗の出店計画についてであります。すでに大型店につきましては神田議員の質疑もあり、私の後には栗原議員の通告質問も予定されておりますが、私は前々から商店街を再開発することによって近代化を促進し、商業者の足腰を強くし、大型店に対抗し得る力を培養すべきであるとの主張を繰り返してまいりました。それなるが故に再開発の如き大事業を推進するにあつては、公権力のリーダーシップが緊急かつ不可欠であるとも申し上げたことがあります。それは別といたしまして、最近になつて商店街の方々が自主的に近代化促進の動きを示し始めているように聞くようになりました。私をして言わしむるならば、遅きに失する感がないでもありません。

んが、まことに結構なことに評価いたします。

そこで、市は行政として、この民間の近代化促進の動きにどのように対応されようとするのか、まずお伺いいたします。

次いで、再開発事業のピッチを早めて大型店対策と対応し得るような努力はできないものかどうか、お考えをお聞かせ願いたいのであります。

次の五項目の質問は、北条海岸の砂浜が著しく浸食されている問題についてであります。海岸の近くの渚地区、この渚は渚銀座ではなく、県の静海荘がある方向であります。あの下に市の休憩所が設けられております。その休憩所のコンクリートの基礎部分が高波によって洗われてしまつております。海岸の管理はもとより千葉県知事であることは承知しておりますが、もし地震等における異常潮位による高潮が発生しましたら、おそらく付近にある家々は浸水することでありましょ。平久里川の河口からシーサイドホテル下にかけては高潮対策の防潮堤が築かれてありますので、こちらの方はまず万全でありましょ。そこで、この防潮堤を北条棧橋の方向に向けて延長することについて県並びに運輸省などと相談することを早急に検討すべきだと思ひますが、市長の御所見をお聞かせ願ひたいのであります。

最後の質問は、市内の中学校の統合対策についてであります。市内の中学校の統合につきましては、すでに本年四月から第三中学校が発足しました。第四中学校を廃止してこれに収容するとともに、北条地区の生徒を第二中学校から分割して三中に収容し、体育行事などに目覚ましい活躍ぶりを発揮しており、教育の実が大いに上つたことを内外に示していると思ひのであります。

安田教育長を初めとする教育行政当局の御努力のたまものと深く敬意を表するとともに、現場の遠藤一郎校長以下諸先生方の適切な教育指導の成果であろうと、これまた深甚なる敬意を表するものでありますが、さて、三中はそれでよろしい。

問題は二中であります。二中の生徒のうち北条地区の学区が分割されて三に移ってしまつた。そして館山地区の生徒にプラス豊房中の学区の生徒を収容した。そして同時に西岬中の生徒も収容すべきところ事情があつて一年延期したという理解の仕方を私はしていたのであります。

これにつきましては、私は去る六月三十日の議会におきまして質問いたしました。西岬中の新入生これは女子でございます。一年後には二中に入ることになるのだから、新しい二中の制服を着せればよかつたじゃないか、こう申し上げたのであります。ところが、安田教育長の御答弁で、西岬中は二中への収容があたかも決まっているかのような私の発言に対して、必ずしもそうではないのだという趣旨の発言をされましたので、私は発言の一部を訂正いたしました。厳密に申せばまさに安田教育長さんのおっしゃつたそのとおりというべきでありましょう。

しかし、どうも私の認識といささか食い違つていたのであります。いま父兄は非常に迷つております。神田議員の質問もありましたが、市の教育行政の中でいままで一貫して流れてきた市内中学校の統合の路線があつたことは否定しがたい事実というべきでありましょう。この路線の認識すなわち西岬中は廃校、二中への収容、そして教育内容の充実による生徒への教育効果を期待するという路線、暗黙の認識があつて、その認識を前提としての西岬

中学校、これは新しい中学校の建築でございますけれども、学校の建設がありました。このように私は理解しているのでありますが、現実の事態は若干違つてゐることは、先ほどの質疑によつても承知しております。

そこで、私は改めて従来の路線と認識あるいは暗黙の認識といつてもよろしいでしょうが、その認識と現実との深い溝が生じている、その穴を具体的にどのように埋めようとされるのかについて質問するものであります。

以上で、質問を終わりますが、簡明率直なる御答弁を期待し、御答弁によりまして再質問申し上げます。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 石井輝久議員の御質問にお答えをいたします。

第一点、市首脳部の執務の姿勢についてでございますが、御指摘の件はたまたま十月にございました。いずれも公務出張中でございましたけれども、三役同時に不在のないように今後努めて配慮をしてみたいと存じます。したがしまして、助役の二人制は考えずに、私どもの執務体制を配慮していきたいと考えます。

第二点、県内最高の職員平均年齢の諸対策についての御質問でございますが、まずお尋ねの点ですが、昭和五十五年十一月一日現在、一般行政職の平均年齢は三十九歳三か月でございます。平均給料は二十万二千七百五十七円、職員数は三百六十九名でございます。

次に、平均年齢、平均給料が高いことについてですが、御承知のように地方公務員法によって、一定の法律に基づく合理的な事

由がある場合以外は、職員の意に反する免職や降格をすることはできません。

しかし、このままでは職員の平均年齢はますます高齢化し、職員の若返り人事面での停滞に拍車をかけ、能率的な行政を推進する上からはよい結果が得られないことなどから、本市では勤奨制度をとり入れております。勤奨の基準年齢は六十歳としていますが、さらに六十歳以下でも退職をうながすため、五十五歳以上の職員と勤続年数二十五年以上で五十歳以上の勇退職員には勤奨扱いとし、その効果を上げるようにしておりますので、管理職もこれに該当すれば当然その扱いをすることができます。

また、六十歳に達する以前の年度中にこの勤奨を受けることとなったときに、その職員の勤務成績が良好と認められた場合には市の負担を最小に抑えながら、その効果を上げるよう特別昇給も配慮しておりますので、諸般の情勢からこの上管理職に対してプラスアルファを支給することは、現時点では考えてはおりません。

第三点、国鉄館山駅前再開発と西口開設についてでございますけれども、特に跨線橋架設についての御質問でございますが、国鉄当局に打診をいたしましたところ、将来、橋上駅舎が建設されたときに利用できないような簡易な跨線橋は認めないというお話でございました。

それから、とりあえず来年の夏に間に合わせるだけのものにはならないかというお話でございますけれども、館山駅周辺市街地整備の調査事業はスタートしたばかりでございますので、御指摘の来年の夏までということについては、西口開設問題も含めた市街地整備の事業化はといて無理だと考えております。

第四点、商店街の近代化促進と大型店出店計画についてでございますが、商店街の近代化促進と大型店出店計画についてのうち市は近代化促進の動きにどう対応するかという御質問でございますけれども、安房郡市の政治、経済、文化等の表裏関と言われております本市にとって、このような動きは大変好ましい傾向であると考えております。

市としては、商店街の方々の自主的な盛り上げる民間エネルギーを適正に誘導しながら、これを結集して安房郡市の中核都市であり、かつ本市の中心商店街にふさわしい町づくり実現に努めてまいりたいと考えております。

都市再開発事業のピッチを上げることについての御質問でございますが、この事業にあたって当初の計画は来年度実施を予定しておりましたが、大型店出店問題が発生いたしましたため、市としてもこの事態に即応し、急ぎ去る九月議会において予算の補正を行い、市の単独事業として調査段階に入ったものでございます。本事業の推進については各種の情勢を配慮し、早期完了に向かつて鋭意努力してまいりたいと考えております。

第五点の浸食著しい北条海岸の対策についてでございますが、千葉県では昭和四十六年度より八幡北条海岸の海岸保全についての調査を実施いたしましたとして種々対策を講じてきております。その一つであります八幡海岸に築造されました三本の突堤により付近の海岸は徐々に安定しております。しかし突堤の南側から汐入川までの間については相変らず砂浜の浸食状況が見受けられます。千葉県では汐入川河口部分についても継続事業で調査を進めておりますが、本年度で調査をまとめ、河口の潮流堤の設計をし、五

十六年度より工事を進めていく計画であると聞いております。汐入川から八幡の突堤までの間の海岸につきましても、市としては引き続き県に要望するとともに、また地元との調整を図りながら対処していきたいと考えております。

御質問の第六点、中学校の統合対策につきましては、教育長より答弁を申し上げます。

○教育長（安田豊作君） 中学校の統合について申し上げます。

中学校の統合については、第一次として本年四月に豊房中学校神余中学校を第二中学校、また第四中学校を新設の第三中学校にそれぞれ統合し、新体制のもとで発足したわけでありますが、第二次として西岬中学校を昭和五十六年四月に第二中学校に統合するという計画に沿って、その実現に努力してまいりましたが、現時点においてはまだ十分なる地元の理解を得られないものと判断いたしました。しかし西岬中学校の統合については、これからさらに地区民と話し合いを続けて円満な統合実現に向かって努力していきたい。こう考えております。以上です。

○一九番（石井輝久君） 再質問いたします。

まず、一点目でございますが、これはまさに体験の話でございますから、たまたま十月に市長、助役長期公務出張ということでございました。公務出張ということでございますから、それぞれの出張について異をさしはさむ気持などは毛頭ございません。それぞれの出張につきまして公務であり、かつまたそれぞれの理由がある。このように理解しております。

ただ、それが同時に不在であったということは、先ほども申し上げましたように、市の最高首脳部お二人がおられないと、あと

公室長さん、あるいは総務部長さん、経済部長さん、あるいは民生部長さんに御相談すれば事が足りる場合もありました。けれども、きわめて困惑する場合も生じてくるわけでございます。現に私はそういう体験をいたしました。その場は取りつくりいたしましたけれども、取りつくりの方が非常に不器用でまことに困惑する事態を生じた。具体的なことを申し上げればいけません。ただいまの御答弁で満足しております。なにぶん今後御配慮をいただきたい。このように要望いたします。この点に関する質問は打ち切ります。

次の館山市の職員の平均年齢が県下で最高である。これは何回か指摘しましたし、そしてただいま御答弁で五十五年十一月一日現在、一月あまり前ですが、それぞれ御答弁をいただきました。これは御答弁は了解できます。これはこのままの状態で年々過ぎていきますと、一歳ずつ増高していく。平均年齢がやがて四十歳を超えます。こういう発言をしたことが確かにございます。

そこで、これは審議をまだいたしておりませんが、手もとに議案と説明資料がございます。この中で、まさに給与改定をしようとしておりますが、この中の別表一、二これを拝見しますと、平均で館山市は四十・一歳、平均月額給料二十万四千四百九十三円、ただいまは御答弁ですと二十万二千七百五十七円こうなっておりますけれども、こちらにあります数日後審議する議案書別表ではもうすでに四十・一、四十歳の大台を超えたわけです。

そこで、何回か御質問申し上げるわけですが、なかなか実際の効果を上げることが困難であることはわかっておりますが、いず

れにしても館山市はもう四十歳の太台を超えます。ただいまの御答弁ですと三十九歳と三カ月。しかしこちらの方の別表の一の説明は四十・一歳、四十歳の太台を超えました。

そこで、いろいろの施策を市長も申しておられます。県から出向して来られた総務部長も鋭意検討中であることはすでに承知しております。

そこで、ただいま御答弁ありました二番目の五十五歳以上の職員に対して勲奨退職、それから五十歳二十五年以上の職員に対する勲奨扱い、こういう措置を講じて平均年齢を下げていく御努力を重ねられているという御表明がございましたので、この点は了承いたしますけれども、私は、一つの提案として伺いましたのは六十歳を待たずに管理職みずから後進に道を譲って退職していかれる方に対しては、勲奨退職プラスアルファの措置、温情措置を講じてあげたらどうかという質問に對しましては、プラスアルファの措置は考えられないということでした。

考えられなければ考えられないでよろしいですが、特別昇給措置を講じているんだからという御答弁でございました。これはそのようなこともあるかと思いますが、ひとつ一家眷族を抱えて、普通の人は六十歳までいられるのにその数年前に館山市の将来を考えて後進にみずから道を譲っていかうとする決意、これは本人の決意だけでなく、家族ともどもそういうことを考慮に入れますして、何らかの優遇措置を私は考えたわけでございますが、プラスアルファ措置は考えないということで、考えなければ考えないでしよるが、なおこういった措置を、こういった措置というのは六十歳を待たずに年齢構造の若返り化を図るた

めにみずから身を引いていかれるという方々に対しては、ひとつ温情措置を将来ともお考えいただきたい。このように考えます。これは総務部長でも、市長でなくても結構ですが、これは事務サイドで結構です。もう一べん温情措置それからさらに積極的に温情措置と並行してこういった勲奨退職を推し進めるということにつきまして、二つ合わせて御答弁をいただきたい。御所見を承りたい。このように考えます。

それから、次の質問でございますけれども、館山駅前再開発と西口、これにつきまして将来橋上駅ができる場合に、茂原では橋上駅の実施に移りつつありますけれども、館山市ではいつ橋上駅、橋上駅といっても具体的になるのは大変だろうと思います。将来橋上駅ができるときに簡易な跨線橋があったんではじまになるから、そういうのは認められない。こういうことの国鉄当局の打診の結果だと思えます。ただいま市長からそういったお答えがございましたけれども、そうではなくて、先ほども御指摘申し上げましたように、とにかく西口は、館山市が昭和四十二年につくった長期計画、いま手もとにございせんけれども、すでにここで西口の開設の必要性が明文化されております。そういうわけで、それから、民間から強い要望が最近になって起こっているというんですから、簡易なものをどの程度をもって簡易とするか、どの程度のものをもって国鉄が承認するか、その兼ね合いですけれども、とにかく西口を、跨線橋の恒久対策としてでなくとも、歩道橋といってもいいでしょう。跨線橋といってもいいでしょう。名称はいずれでも、そういう形でなお推進されるように要望をいたします。これに對します御所見を伺いたいと存じます。来年の夏まで

ということは、とてもいうべくして不可能であろうかと思ひますので、その点に關しましては答弁は求めませんが、西口に關しまして再度御所見を承りたいと存じます。

それから、駅前商店街の近代化促進と大型店の出店計画との兼ね合いとかいうことにつきまして過去にも御質問申し上げたんで、そうしてただいま市長から御答弁をいただきました。ピッチを早めて大型店対策というか、対応する努力で、来年度実施する計画だったけれども、それを急いで九月議会で補正して、単独予算で調査に入った。そこまではまことに手早い対応だと思つて評價いたします。ただ、本當に商店街の近代化、構造改善を再開発事業と並行してびったり歩調を合わせていくことはなかなかむずかしいと思ひますけれども、ひとつそれこそ大型店の可否ではなくして、時代の要望として市の重点施策の一つとして積極的に取り組んでいかれることを強く要望したのであります。この点に關しますところの再答弁をわずらわしいと存じます。

次に、北条海岸の浸食でございますけれども、ただいま市長からるる御説明がございました。ところで、それはいままでの経過の説明でございますけれども、せんだつての台風は御承知だろうと思ひますけれども、船形の高尾造船の船台の上にあった船がひとりでに波に持つていかれちゃつて、こちらの那古の方の海岸にぶち上つちやつた。そういう事実があったときに、いままでテトラポットが沖合に出ています。これは承知しております。いづれにしても、十月十四日の台風というのは、船台の船が持つていかれるぐらいの強さ。それが先ほど御指摘申し上げました静海荘の下の海岸にある館山市の休憩所のコンクリート部分が洗われ

ちやつて基礎が出てゐる。非常に危険です。こういうことを繰り返しますと大変な事態が起これないとも限らないことを恐れるわけです。

ところで、船を持つていかれるぐらいのひどさ、それからかなり水際から上の方の休憩所の基礎部分が洗われる。これは現状把握、現状の認識をどのようにされておられますか。風の向きは西風じゃないんです。あのときは北北東なんです。だから西から吹き上つたんではないんです。それからあのときは最大瞬間風速どういうように認識しておられるか。必ずしも満潮ではないんです。おそらく満潮時だったらもっとひどい。當時西風だったらもっとひどい。風は北北東、ですから沖合いからくるんではないんです。そこらの現状把握はどのようにになっておられますか、お伺いしたいと存じます。その認識の上に立つて海岸浸食をやっぱり考えていかなければならない。私はこのように考へる。この点は再質問で簡明にひとつ御答弁をいただきたいと存じます。どのように現状を認識されて、あのような著しい浸食になったのか、お伺いをいたします。

それから、中学校の統合でございますけれども、ただいま教育長さんから二次分として西岬中と、これはデリケートな問題もございまして、地元の方々とよくコンセンサスを得られるように御努力を積極的に重ねられるように格別の要望をしたいと思ひます。

それで、これは前に實際、個人的なことは申しませんけれども、女の子を持つた父兄の方は、また西岬中の制服で通わせて、翌年うちの子は二中に来てもう一着つくらなければいけないかなと、

余分な精神的な負担を感じているわけでございます。そういうこともございますので、私の質問は、現状と私どもの統合の路線に対する認識とあまりにも大きな溝が起こっている。この溝を具体的にどのように埋められるかという質問だったんですが、これは具体的にどのように埋めるのかといったって、スコップで土をおんまくようなわけにはもちろんいきませんから、とにかくコンセンサスを得られるように、そしてあの三中が最近目覚ましいスポーツ面にしても、それから学力の向上につきましても成果を上げておられます。あのような成果を第二次の統合によって実効を上げられるように特に強く要望する。大変でしょうが、教育委員さんも優秀な方がいっぱいおられるから、いま中断しておられるんですが、ひとつ精力的に西岬地区の有力者の方々、有力者でなくとも父兄の方々等々と御相談なさって一刻も早く統合の実を上げられますように切望いたします。

以上、再質問申し上げます。統合につきましては答弁は求めません。

○総務部長（石田雄一君）　まず、再質問の第一点目でございますが、県内最高の職員平均年齢の諸対策につきまして、退職勧奨の基本的な考えにつきましては、先ほど市長申したとおりでございますけれども、石井議員さん御指摘のとおり、本市の職員の高齢化の問題というものは、将来に大きな形で覆いかぶさってくるであろうという懸念があるわけでございます。この人事管理上におきます中期あるいは長期的な展望を持たざるを得ないわけでございまして、人事担当部長としてはそのへんの事情というものをくみたいと思います。ただ、国におきまして高齢化職員の給与の

抑制策というものが最近打ち出されてきておりますので、そういう観点からまたひとつ検討の余地が生ずるんじゃないかということで、総合的な検討を今後慎重に進めてまいりたいと考えております。

○経済部長（山田俊康君）　第二点目の西口開設等に関する所見というところでございますけれども、九月定例議会で補正をいただきました調査等の中にも市街地再開発ということでも西口開設を含めて調査が組まれております。市街地整備の西口開設は今後それらの調査を待つて進めていきたいというふうに考えております。

それから、北条海岸の浸食の関係でございますけれども、この問題につきましては、市長からの答弁もございましたように、現在県が綿密な調査を行っております。本年度中に調査の一応の結果を見て、来年度以降地元関係者との調整を図りながら、最もよい方法で対処していくんだという方向を県当局から聞いておりますので、なお引き続きこれらについて早く実現できるように県当局にも要望してまいりたいと考えております。

跨線橋の関係についてでございますけれども、簡単な跨線橋では認めないというのが国鉄当局でございます。先ほど申し上げましたように西口開設を含めた市街地の整備調査を実施しております。そういう中で早く実現できるように今後とも考えてまいりたい。このように考えます。

○一九番（石井輝久君）　再度、御質問申し上げます。

まず最初に、首切りのような感じになっては、国の場合でもそうです。県の場合ももちろんそうですが、退職退職といつて首切るような話ばかりだと陰気な話になりますが、館山の特殊性これ

は先ほど御指摘申し上げましたように年代が四十台の上台を超えておる。ただいまの総務部長の御答弁ですと、国の方でも高齢化職員の給与が高過ぎるということの検討だろうと思えますけれども、それにプラスアルファするとなお高くなる。こういった弊害が確かに出ると思えます。しかしこれはそのことが恒久的な弊害ではなくて、一とき退職を推進させるための便法であるという理解に基づけば、必ずしも国のチェックといえますか、合意が得られないということはないと思えます。この点はしかし考え方といえますか、一つの外科手術的な対症療法といえますか、そういう意味合いでとらえてある期間実施をするといったようなことも検討の余地があるうかと思えます。ひとつそういうことも含めて積極的に御検討をいただきたい。要望を申し上げまして質問を打ち切ります。この質問は議案の審査の方でもやろうと思えばできますから、今回はこの程度をもちまして、検討の要望だけを申し上げます。

それから、西口開設ですが、調査の結果を待つてということ、それはわかりますけれども、また簡易なものについては国鉄もかえって迷惑しちゃうということもわかります。いずれにいたしましても、すでに四十二年に始まったことなんですから、いまに始まったことではないんですから、検討はされているでしょうが、それにどう考えてみたって、毎朝あれだけの人数の女子高の生徒がずっと迂回して行く。その事一つとってみたって全くおかしなものだと思えます。ですから、そういう意味も含めまして、そろそろ眠気を誘ってあるようにございますから、この点に關します質問は打ち切りますが、ひとつよろしく前向きに、積極的に検

討願いたいと思えます。

それから、北条海岸の浸食でございすけれども、事業主体は県、国でございすから、早期に実現を図りたいというけれども、早期にというのは導流堤のことを指すんですか、どうですか。そのような感じもいたしますけれども、これはそれならそれでよろしいうございすけれども、先ほどの私の質問は現状認識、十月十四日です。あのときの現状のとらえ方、これを聞いています。大した台風ではないんです。それでもあれだけの水が上ってくる。その現状をどのように認識しておられるか。風向はどうだったか。風速はどうだったか。満潮時は何時だったか。最大瞬間風速は何時だったか。その現状をどのように把握しているかというのを御質問申し上げたわけです。その点につきまして再答弁を求めます。

○経済部長（山田俊康君） 十月十四日の現状把握はどうかということですが、現状を私自身把握しておりません。

○一九番（石井輝久君） そこまで通告申し上げてなかったから、それに一人の人間が海岸に立って現状を認識しろといっても、これは無理でしょうが、大した台風ではないということを私は指摘するんです。なぜかといえますと、風速だって実際のところ十一メートルなんです。十一メートルの風速なんて大したことはない。最大瞬間風速は二十一・六メートルこれだってそんなに大したものではない。しかも西風ではない。北北東なんです。それで今度本当に行つて目で専門家が見てみる必要があると思ひますが、基礎部分が洗われておる。もし、西風で満潮時だったら道路までかぶっちゃいますよ。それを私は言っているんです。ですから、導

流域で果たして間に合うのかなという非常に危惧の念を抱くわけ
です。

ですから、現状を正しく把握して、それに対応する検討を早急
に始める必要がありますか、こういう意味で質問申し上げます。
いるわけです。ですから、望むらくは、もう向こうの那古の大和
屋旅館の下だっそうですよ。直立型のものではないですよ。も
っとゆるやかな勾配のものができておるんです。湘南の方面でも
そうです。熱海の近辺だってみんなそうです。海岸の保全対策と
いうのはみんなあのような形で行われている。テトラポットを前
に出すなんていうのは原始的なんです。もっと恒久対策として、
特に地震対策が叫ばれている昨今ですから、これは大いに前向き
に検討していただきたいということを特に強く要望いたします
私の質問は一応これで終わります。

○議長（五十嵐 昇君） 以上で、一九番議員の質問を終わります。
暫時休憩いたします。

午後二時三十八分 休 憩
午後二時五十八分 再 開

○議長（五十嵐 昇君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

一二番議員栗原一雄君御登壇願います。

（一二番議員栗原一雄君登壇）

○一二番（栗原一雄君） すでに各同僚議員から全く同じ質問が行
われましたが、発言順位の抽せん結果、最後尾でございますので、
再質問については重複しないよう角度を変えて御質問申し上げた
いと存じます。

さて、本定例会において前回に引き続きすでに通告のとおり、

市民を擁護する立場にある執行当局に対しまして、零細規模小売
業の集団都市としてきわめて性格の強い本市に大型店の出店は将
来にわたり強い不安を抱くものでございます。したがって、生活
権を脅かす重要な時期だけに、質問内容についてはきわめて関係
の深い問題でございますが、初めに大別して御質問を申し上げます。

第一点、大型店出店に伴う影響と問題点について御質問申し上
げます。九月定例会に大型店の出店計画についてお尋ねいたしま
したが、その後新しくさらに二店舗が大店法に基づく出店計画に
ついて説明会を開催し、出店についての意向を明らかにいたしま
した。したがって、市民生活に与える影響力は一段と厳しく、死
活問題として発展するものと考えます。

さて、本市に予定される量販方式の大型店は、総店舗面積は六
万八千五百四十二平方メートルでございます。したがって、本市
における第一種及び第二種量販店の取り扱わない燃料小売面積等
すべてを含めても五万三千五十二平方メートルでございます。し
たがって、新しく設置される店舗面積は、現況における約一三〇
％と大きく、このような無秩序な出店が許されてよいものかどう
か、地元民はもとより行政当局としても疑問を強くお感じになっ
ておられると思います。

さて、本市は地理的にも房総半島の最先端に位置いたしており
ます。したがって、気候風土には恵まれておりますが、義務教育
を初め高等教育をりっぱに終了しても、個々の能力に応じた企業
や、能力が十分発揮できる安定した生活を終身就職として迎える
ことのできる企業はきわめて少なく、したがって、若さと活力が

あふれる、みなぎるようなエネルギーな町づくりは困難にひ
としく、したがって、本市はきわめて財政基盤の弱い都市構造と
なっているのは御承知のとおりでございます。

したがって、所得が得られる企業によって市民がひとしく
その恩恵を受け、地元へ活力と地元資金を生み出す生産的企業誘
致についてはもう手を挙げて賛成をいたすところですが、現況の
中での大量小売店については憂鬱を感じるところでございます。

先ほど申し述べたとおり、地域の経済活動の原動力となる生産
的大企業を初め、観光地としての受け入れ施設もきわめて弱く、
一次産業、二次産業についても皆無にひとしい状況でございます
で、したがって、地域の経済活動に活力と潤いを与える若い
生産年齢者は市外に流出し、必然的に生活の知恵として小売業を
中心に発展し、歴史的に形成された袋小路の商圈は、地域の農漁
業の生産と小規模製造業が地域に密着した住民の購買力とのつり
合いのとれた形で社会共同体を形成しており、小売業が町づくり
の核として発展を確保し、高齢者社会の進んだ地域住民の雇用促
進を図り、就職を保障してきたことは論ずるまでもございませ
ん。したがって、そのような条件が相乗効果をつくり出し、南房総に
おける位置づけとして、政治、経済の中心地となり、過去さら
に現在を支え、住民の行政需要にこたえられる必要な大きな財源
としての役割りを果たしてきたものでございます。

したがって、大型店の進出によって、地元購買力の吸い上げは
地域経済の運用資金の回収作業となり、必然的に凍結されて地元
資金の先細りは、行政執行に必要な財源不足を来すものであり、
地域の経済活動を大きく攪乱する要因をつくることは明白であ
る

うと考えます。

したがって、出店について特に近年は各地でトラブルが発
生しており、大型店問題が社会問題として大きくクローズアップ
されてきており、これは地方都市においてオープン後における既
存小売店に深刻な打撃と影響がはじまっており、問題視されるケ
ースが増加の傾向にあり、本市も今回のような出店計画は異常とい
うような状況であり、果たしてその出店が地域消費者を初め既存
小売業を含めて市民生活に真に役立つ形で出店するのかどうか疑
わしく、十分な検討を行い、慎重に行政機関として考えなければ
ならない問題と存じます。

したがって、今回大店法に基づく三条申請の届けをされた大型
店と出店される予定七社が争って、地元の実態を無視して企業の
利益追求だけの出店では、転廃業の続出は免れないものと考えま
す。

一般論として、傍観的立場や大型企業、行政にあたるものは、
たてまえ論としては消費者の利便に寄与する大型店は必要である
と申されるでしょうが、もちろんその考え方も間違いではなく、
八〇年代は地方の時代と言われますように、その都市機能の確立
を図り、地元の大型店の受け入れ体制を整えた時点にこそ、積極
的な誘致運動こそ必要であり、現時点においてはきわめて危険な
問題として考えるべきであろうと存じます。

もちろん、憲法によって国民は最低限度の生活を営む権利を有
する生活権が認められ、保障されているものでありますが、通産
省を初め行政機関がすべて弱小市民である既存の生業的小売業の
生活保障を確約してくれるなら、手をこまねいていても問題はな
い

からうかと考えますが、その対応策についてどのようなお考えをお持ちになっておられるか。以上の点を踏まえて明確なる御答弁をお願いします。

次に第二点、商店街区再開発事業促進について御質問を申し上げます。

去る九月定例会において市街地整備調査委託料として九百万円を補正によって予算計上をいたしました。もちろんこれは都市機能の充実、環境美化によって市街地の活性化を図るための布石として、将来の町づくりに最も必要な整備課題及び計画立案に際しての考慮すべき条件整備の委託料でございますが、市街地の再開発については長年の懸案でもあり、本市が南房総における中核都市としての都市機能の活性化は急務の問題であり、経済活動の中心商業都市への飛躍的イメージアップは、地域の消費者ニーズへの積極的な対応という面からも促進を図り、都市機能の充実によって市民生活の拠点整備を目的に進めることは真の住民サービスであり、あわせて大型店対策の一環としても、また将来の大型店の受け皿としても必要な措置として発展の核としての拠点づくりは、地方の時代と言われる八〇年代には欠くことのできない条件であろうと考えます。

したがって、早期実現こそ市民に利便と豊かさを与え、市民のいこの場、安らぎの場として安全で快適な町づくりこそ市民にゆとりある潤いを与え、南房総の表玄関として明確な位置づけによって本市の未来が輝き、長期的安定が保てるもので、将来にかかわるきわめて重要な課題として真剣な検討が加えられ、本市の施策との有機的な連携を図り、行政指導による主体性のある町づ

くりを強く望むところでございます。

したがって、市当局はどのようなお考えをお持ちになっておられるか、お尋ねを申し上げます。

以上、二点について御質問申し上げましたが、御答弁によって再質問をいたします。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 栗原議員の御質問にお答えをいたします。

第一点は、大型店出店に伴う影響と問題点についてということでございますが、前年商工会議所において策定されました地域商業振興計画におきましても、本市小売商業の方向性を明らかにしており、商業振興のモデルプランづくりの提言を行っております。その中で、本市小売商業の核機能の弱いことを考慮して、核店舗への建設を提言しております。

こうした経緯から、ある程度大型店出店の必要性は考えております。安房郡市の中核都市としてこれに見合う商業集積は社会的な欲求であります。小売販売面積の増大は、本市の商業実態、購買力等を考えて実施すべきでございます。無計画な出店は避けるべきだと考えております。今後は、会議所内に設置されている商調協の調整行為等が実施されることとなりますので、本市に適合した出店内容を期待するものでございます。

小売商業が常に変化し、多様化している消費者ニーズに機動的にかつ的確にこたえていくため、多様な業態がそれぞれ販売サービスをつくり出しながら発展を図っていくことが必要であろうと考えております。

質問の第二点、商店街区の再開発事業の促進についてでございます。

ますが、私は館山市の将来を現在同様安房郡市の政治、経済、文化等の中心都市として、また同時に首都圏の観光レクリエーション都市として成り立っていくために、限られた財源の中でもろの施策を施しているところでございます。

その一環として、特に駅前を中心とする既成市街地については中核都市の玄関にふさわしい町づくりとするために、かねてより情熱を傾けているところでございますが、したがって、現在盛り上がりつつある市街地整備に対する地元や関係者の動機あるいは熱意といったものを熟成させるべく、市街地再開発の早期実現を目指して、今後とも積極的に働きかけていく所存でございます。

以上、答弁を終わります。

○一二番（栗原一雄君） ただいまの答弁に対して、再質問を申し上げたいと存じます。

ただいまのお答え、さらには同僚議員に対します最初の答弁の中で、総量規制は不可能であるとの答弁がございました。一般小売商店これは館山市のほとんどの何らかの形で生活の依存をしている人たち、一般的には三分の二のように申されておりますが、その人々は市の行政に大きな期待を寄せております。したがって、行政知識と行政経験豊かな市当局が、住民サイドに立って方向づけをしてくれるであろう。このように考えているわけでございます。

大型店の進出問題に関して、市がしなければならぬ問題があるのかと考えております。まず、商工会議所と密接な情報の交換市の商業配置計画図の作成ができていれば、それに基づいて指導

性を発揮すべきだと思えますがどうか。したがって、そういった話し合いの場を市当局と商工会議所とこういった問題が発生されましたから、どのぐらい双方で話し合ったかどうか。最初にそれをお尋ね申し上げたいと思います。

なお、ただいまの答弁の中にもございました地域商業振興調査が昨年小冊子によって発行されております。そのような調査は、極端に申しますと、私の知ってる範囲でも非常に数が多いと思いますが、この十年間の中に何度ぐらいお金をかけてそういった調査をされたかどうか。

それから、神奈川県藤沢市においては、町づくりと関連づけました商業近代化の計画設定と、これに基づく出店指導では市がリトダーシップをもって実施いたしております。商店街の力では利害関係が伴いまして、アンバランスの部分的改修はできても、抜本的な恒久的な町づくりは不可能でございます。

したがって、最近でも長野市では商業近代化地区計画をつくって、大型店の許容面積は三万三千平米と決めております。あの大きな町でもそううたっております。地元大型店の増床については優先いたしまして、この残りの部分について大型店に割り当てるという、そういった成功例もできております。

しかしながら、こういった問題をやってまいりますには、行政がやらなければならない。商業街区の実態を調査いたしまして、消費者の購買動向と連動させていかなければならないと存じますが、そのような基礎資料をすでにおつくりになっておられるかどうか。と申し上げますのは、大型店最近ではきわめて大きな問題は、地元でもうすでに出店されておりますサカモトさん、さらに

はJ店が三年ほど前問題ができて、その後うわさの中にたくさんさんの大型店の出店についての話が出てまいりまして、当然それに対応すべく行政機関として研究をしなければならぬと存じますが、それについてお尋ねを申し上げたいと存じます。

○経済部長（山田俊康君） 市と商工会議所との話し合いはどの程度しているかということでございますけれども、これは非常に綿密に連絡をとり合っており、少なくとも商工観光課長あるいは商工会議所の専務等との連絡は相当綿密にしております。

それから、調査は十年間に何べんぐらい実施したかということですが、この点につきましては、いま資料を取り寄せております。それから、実態動向等の数的な問題につきましては、通産局におきましてそれぞれ検討はしておりますが、先ほど市長から答弁申し上げましたように非常にいろんな要素が入りまして、現実の問題としてどこにもびったりというような数的なものが選び出せないというのが現状でございます。特に販売動向との連動ということでは、消費者のニーズの動き等ともからみ合っております。一定の数値には置き変え得ないというような状況でございます。

先ほど、調査の関係でございますが、市が直接関係したものは四回程度ございます。それから各商業会等がやったものもこのほかにあるやに聞いております。

○一二番（栗原一雄君） ただいまの御答弁で四回程度と、さらにはまた商工会議所と綿密な連絡を行っている、このような御答弁をいただいたわけですが、しかしながら、私の知ってる範囲では、大型店が何坪、何平米出るんだ。何年何月頃だ。そういうお

話は交換されておることは私も存じ上げております。

しかしながら、行政当局としての考え方、市民擁護という大きな観点からお考えになられるなら、もっと将来にわたってのその期間、出店しますよということになりますと、大体二、三年どこでも時期がございまして。その間にある程度の対応策、煮詰めた考え方も必要ではなからうかと存じます。

さて、大型店の出店計画が出てくるのは、商業活動の近代化の一つの現象としてとらえるべきですが、本市のように問題の発生する地域は、おおむね旧来の自然発生的な商業配置に矛盾が生じているからであろうと思います。したがって、地域内の商業活動のあり方をどうするかという方針が必要であって、市自体がその計画を示す必要があるかと考えますが、それらについても一度重ねてお尋ねいたします。そういう問題について御研究をされたかどうか。お答えをいただきたいと存じます。

○経済部長（山田俊康君） 商業配置の実態等について研究されたかどうかということでございますけれども、これは先ほど市長から答弁いたしました五十四年三月の振興計画書にもございますように、市の商店街におきましては、駅周辺に核となるような店舗が東口に二つ、あるいは西口に一つ程度はというような提言も得ております。すでにこの問題につきましては、これに関連するような問題につきまして、前から消費者ニーズにこたえるというようなことで、このモータリゼーションの中で一番必要なのは駐車場の問題だというようなことが前から言われておったことも事実でございます。

○一二番（栗原一雄君） 振興計画については十分理解いたしてお

りますし、またそれを実際にはなかなか消化がむずかしいと思います。そのように具体的にはこの九月に九百万円によって調査をいたしておるようですが、毎回、調査資料を手もとにいたしておるようでも消化されない。昨年でございましたら、海洋環境調査でございましたか、そういった調査資料もいたしております。なかなかそういったものも消化されない。絵に書いたぼたもちでは町の進展は望めないと思います。

さて、大型店の出店についての背景分析ですが、当該地域の人口の急増によって量的、質的に地域内の消費者構造の変化が大きなものがあり、それに伴って商業施設が不足気味になってきた地域。そういった一つの問題。第二点目に考えられることでございますが、商業地域が旧態依然、変化に乏しく、個々の小売店が個別的に改善の努力をされても消費者意識にこたえるには十分でない。このような場合に大型店の問題が発生するのでございます。

もちろん、大型店は相当の資料、資金そういったものにまわっております。また人材力にもまわっております。したがって、そのような調査は十分にいたしております。

本市においては、第二番目に問題があるかと存じます。これは商業行政の私は遅れてはいないか、このように考えるわけでございます。もっともっと積極的な商業行政にたずさわっていただくかなければならない。このように考えておりますが、私は一番問題にいたしておりますのは、先ほども申し上げましたように、ただ数字的にどこが何平米出るんだろとか、どのような形で出るんだろとか、それはただ連絡であって行政指導というわけにはまいらない。このように考えるわけでございます。

一つの考え方といたしましても、一般的に申されますように、自由主義経済下においては一定のルールや条件のもとで競争が行われてこそ発展が図られるべきだろう。このように考えるわけでございますが、商業近代化の構想の骨格をまとめ、消費人口に見合う調和のとれた市商業施設の立地、配置を行い、消費者の購買要求にかなった商業構造及び商業空間を創出して既存組織の活性化を図る。さらには商業施策実現化のパイプ役といたしまして組織の再編成そういったものがなければ町づくりはきわめてむずかしいと存じます。

したがって、先ほどの同僚議員に対します答弁では、総量規制についてはきわめてむずかしい。このようなお話もありましたが、私が先ほど申し上げましたように長野市では実際にやっております。これは可能でございます。

また、大店法を何度繰り返し返して読みましても、あれはかて抜けてございます。したがって、大店法は改正が行われなければ、現在の小売店これから大きな死活問題になっていくことは申し上げるまでもございません。ただ、救われますのは十五条の二でございまいしうか、市町村長は意見を述べることでできる。前回の法律の改正の大きなそこが違いであると存じております。

過日、出店をしようとする大型店の関係する方とお会いしました。その中で申されましたことは「館山はきわめておいしいところだ」と、これははつきり言っておられました。「おいしいところ」とは、先ほど申し上げましたように、館山市が商業行政がきわめて遅れている、出やすい条件にある。したがって、なだれ現象のように七店舗も、先ほど市長さんは六店舗と言っておられま

したが、最初の御質問の中で申し上げましたように、駅前については地元の皆さま方の設置されようとする共同の大型店、そしてまたそれと地元の大型店、県では館山は七社と、このように言っております。

県でも大変心配をいたしております。もちろん通産省でも心配をいたしておりますが、その解決について、できるのは十五条の二に示された市長の意見具申であるかと存じますが、したがって私は本市の近代化を進めて町づくりをいたしまして、それからの問題としても大型店誘致については十分だろう。このように考えるわけでございます。そういったことについてお考えを述べることはむずかしいのかどうか。一般的には各市町村とも通産省あるいは上部機関であります県そういった上意下達、そういったこととでございます。なかなか意思決定がむずかしいことは十分理解できますが、それでは地元の小売店いつになっても救われなと思います。それについてお考えをお尋ねしたいと存じます。どのようにお考えになつておられるか、お尋ね申し上げます。

○市長（半澤良一君） 先ほど御質問のありましたように、従来のいろいろな調査をいたしましたし、それからコンサルタントに診断をあおいだ、それを地元商店街が活用するという意欲が非常に乏しかったわけでございます。

先般、実施いたしました地域振興計画にいたしましたも、このままではせっかく調査したものが何にも生きないし、また現実の事態として、館山市の地元の商店街がこれを契機に何らかの行動に出ない限り館山市の商店街の発展はあり得ない。

しかし、これは商店街の動きを持っているわけにはいかないと

考えまして、都市開発ということを考えまして、行政がある程度リードしなければいけない。そういうふうに考えたわけでございます。そのために昨年一年間準備期間を置きまして、この四月から正式に都市開発室をつくりまして、行政のリードによる都市改造をいたしたい。商店街の改造をいたしたい。その方向に向かって踏み出したわけでございます。

そうした事態の中で、大型店の出店問題が起つてきたわけでございます。そうしてその都市開発の一つの方向として、地域商業振興計画をたき台にして、そして都市開発の方向を見出そうという、そういう方向できているわけでございます。

地域商業振興計画書の中に、館山市の商業機能きわめて弱い。それを救う一つの方法として、核店舗をつくるべきだという提言があるわけでございます。それについては栗原議員ご存じのことと存じます。そういう意味から、今後の大型店七店でございますか、出店に対してはある程度の大型店の出店は必要であると考えているわけです。そしてそれが一つの消費者ニーズにこたえる方向でもあろう。同時に商店街の近代化を図ることによって、流動していく消費者ニーズに、多様化していく消費者ニーズにこたえるような町づくりをしていきたい。基本的にはそういうふうに考えているわけでございます。

そういう意味で、先ほども総量規制という問題も出ましたけれども、一体どの程度の総量を規制すべきか、いろいろの要素がいろいろございまして、現在総量がどれぐらいであるべきかということとはなかなか規定できないように思います。基本的にやはり自由主義経済のもとにおける商業活動でございますので、やはり自由な

活動を認めるべきだというのが私の基本的な考え方でございます。しかし、現実にかうした問題が起こりました場合には、いろいろな要素を考えながら、この問題をどの程度に、大型店の進出をどの程度にすべきかということを商調協の場で協議をいたします。その段階で市としてその数量を考えていきたい。そう考えております。

○二番（栗原一雄君） 基本的な市長さんの考え方につきましては、よく理解できました。

さて、大型店の出店についてはもちろん問題が一つの結果として残るでありましょと考えます。私も各社ともお会いをしておりますが、話の中では大型店は結果的には当初から地域破壊を指摘しているものではなく、したがって県や市の責任において商業施設配置計画の立案後まで大型店の出店計画の延期を求める余地があるはずであろうと私は考えます。したがって、大型店の問題について果あるいは上部機関にお伝えいたしましても、その要請を断わる根拠はない。このように私は考えます。

そういった意味から申し上げましても、先ほど御質問申し上げましたように、商業配置の実態を消費者購買動向と連動させまして、五百メートル単位に網をかけた上で、その中のデータをつくる。そうした作業が私はきわめて大事であろうと、このように考えます。したがって、商業調整の基礎資料として商業近代化計画さらには都市計画と関連させるような資料づくりを早急に行うべきであって、それらによって小売業者、出店者、地元消費者の紛争防止の役に立つものと考えます。したがって、そのような資料によって、公共の福祉、町づくりという高い論理で大型店にも説

得できるような気がいたします。ぜひとも積極的な、行政当局にはそれにふさわしい体制が、しやすいような環境づくりをしていただきたい。このように申し上げるわけでございます。

さて、残された時間は大変少のうございますが、私が申し上げるまでもなく、昨年度広域商業調査が行われまして、もちろん広域性や公平性という点から考えまして、県レベルの調査が必要だと思えます。それが広域商業診断になろうかと存じますが、さらには特定大型店進出地域商店街診断について、これは国、県がやっておりますので、そういった資金が使えるわけでございます。

財政的にもきわめて弱い本市でございますが、そういう地元の予算を支出しなくても十分調査のできる資金を使って、十分なる検討をしていただきたい。要望いたしまして、時間の関係で打ち切らせていただきます。

○議長（五十嵐 昇君） 以上で、一二番議員君の質問を終わります。

散

会 午後三時四十二分散会

○議長（五十嵐 昇君） 以上で、通告者による一般質問を終わります。

本日の会議はこれにて散会いたします。次会は明十二月九日午前十時開会とし、その議事は各議案の審議といたします。

○本日の会議に付した事件

一、行政一般通告質問